

Ⅲ 自由回答一覧

(シンポジウム調査用)

問2-1 補問1 (問2-1で1「はい」をお選びの方に)

あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。
(○はいくつでも)

「7. その他」の記入内容(46件) ※重複回答はまとめて記載

10月26日 東京ウイメンズプラザホール

- | | | |
|---------|---------|--------|
| ・おじ(3件) | ・義姉 | ・おじ、おば |
| ・おば | ・義妹、いとこ | |

11月9日 東京ビッグサイト

- | | | |
|---------|-----|-----|
| ・義親(2件) | ・おば | ・義姉 |
| ・おじ | ・義弟 | |
| ・おじ、いとこ | ・義父 | |

12月21日 神戸ハーバーランドスペースシアター

- | | | |
|---------|---------|--------|
| ・おば(3件) | ・おじ(2件) | ・おじ、おば |
|---------|---------|--------|

1月25日 東京国際交流館

- | | | |
|---------|----------|-----|
| ・おじ(3件) | ・いとこ(母方) | ・おば |
| ・義父(3件) | ・おおおば | ・義姉 |
| ・義母(2件) | ・おじ、おば | |

2月7日 沖縄コンベンションセンター

- | | | |
|---------|-------|------|
| ・おじ(4件) | ・いとこ | ・曾祖母 |
| ・義父(2件) | ・おば | |
| ・義母(2件) | ・義母、父 | |

問3-1 補問1 (問3-1で1「言葉を知っていて、その内容も知っている」、2「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に)

「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになりましたか。(○は1つ)

「9. その他」の記入内容(56件) ※重複回答はまとめて記載

10月26日 東京ウイメンズプラザホール

- | | | |
|----------|---------------|--------|
| ・本(4件) | ・雑誌 | ・大学の授業 |
| ・パンフレット | ・仕事上で | ・本、冊子 |
| ・医薬品メーカー | ・大学での講義 | ・本を読んで |
| ・学校、大学 | ・大学の講義(2002年) | |
| ・学校の授業 | ・大学の講義 | |

11月9日 東京ビッグサイト

- | | | |
|---------------------------|---------|----------|
| ・書籍(5件) | ・雑誌(2件) | ・病院勤務のため |
| ・本(3件) | ・雑誌・本 | ・父の治療中 |
| ・ずいぶん前のように思います。忘れてしまいました。 | | |

12月21日 神戸ハーバランド・スパ・シアター

- ・〇〇市のガンのイベントで
- ・大学の研究室で
- ・大学
- ・センモン書
- ・まんが
- ・働いていないが看護師であるので関心がある
- ・緩和相談センターの印刷物で

1月25日 東京国際交流館

- ・学校の授業（2件）
- ・学校（大学）
- ・仕事を通して
- ・大学の講義（2件）
- ・看護学校
- ・職場（製薬）
- ・本（2件）
- ・雑誌、がんレポート
- ・病院、本
- ・がん情報誌など
- ・仕事で知った
- ・忘れるほど前に知った
- ・医療事務
- ・仕事の研修←…ガン保険

2月7日 沖縄コンベンションセンター

- ・大学の授業
- ・看護師職だった為

問3-3 補問1（問3-3で1「はい」をお選びの方に）
「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。（〇はいくつでも）

「6. その他」の記入内容（2件）

1月25日 東京国際交流館

- ・緩和ケア病棟および緩和ケア病棟以外の病棟やそうした病棟のない病院でも緩和ケアに理解のある医療機関やそうしたDrのもとで在宅。どこでもできると思うが実際にはいやがるドクターもいるので（いたので）

2月7日 沖縄コンベンションセンター

- ・自宅でも

問4-1 あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何か。（〇はいくつでも）

「10. その他」の記入内容（17件）

10月26日 東京ウイメンズプラザホール

- ・PUIでは実際にどのようなケアが受けられるのか、PCUでの実際のところ、また一般病棟とのちがいがいまひとつ分からない。
- ・麻薬を上手に使える医師がどこにいらっしゃるか

11月9日 東京ビッグサイト

- ・①予約のとり方（ex. 数ヶ月前にTELでなど）②ベッド数、いつ頃ベッドが空くかを知る方法
- ・関末期で痛みや不安なく生活できるか？
- ・医師の経験年数など

12月21日 神戸ハーバランド・スパ・シアター

- ・ガンの副作用の少ないガン治療薬や緩和ケアへの治療のいろいろなど
- ・本人のみでなく家族のこころの問題
- ・がんの予防等

1月25日 東京国際交流館

- ・緩和ケアとがん治療方法の関係について、自分のがんになった時にそのがんについて納得できることとして。
- ・医療者への教育、特に医師
- ・在宅緩和ケアの指導・推進について～窓口など
- ・医師が緩和ケアをどのようにとらえているのか
- ・CAM

2月7日 沖縄コンベンションセンター

- ・家族（遺族）ケアの方法と実際について
- ・がん難民
- ・グリーンケアについて
- ・地域連携

問4-2 「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
(〇はいくつでも)

「13. その他」の記入内容（6件）

10月26日 東京ウイメンズプラザホール

- ・一般の学校

11月9日 東京ビッグサイト

- ・保健所
- ・経験者の方の話
- ・患者の会等

12月21日 神戸ハーバーランドスペースシアター

- ・家症医学
- ・薬局

問6-1 補問1（問6-1で1「はい」をお選びの方に）
「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになりましたか。
(〇は1つ)

「9. その他」の記入内容（10件）

10月26日 東京ウイメンズプラザホール

- ・リレーフォーライフ
- ・雑誌

12月21日 神戸ハーバーランドスペースシアター

- ・病院でのチラシ
- ・イベント会場
- ・大学

1月25日 東京国際交流館

- ・いのちの会
- ・仕事上
- ・病院の抗がん剤をうつ部屋
- ・日本緩和医療学会
- ・職場（製薬）

問8 緩和ケアを普及するための事業「オレンジバレーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

記入内容（318件）

10月26日 東京ウイメンズプラザホール

- ・心のケアについて体制を確立していただきたい（本当の専門家の養成、ただの臨床心理士ではなく病気についての知識もともなう専門家）
- ・（予定）研修・講習・シンポジウムの開催をネット等で知れるとよいと思う。知りたい・勉強したいと思っても、いつどこで開催されているか分からないことが多い。年月日・内容・開催地で検索できるe t c。
- ・上のキについて…追伸・ホスピス病棟又は緩和ケア病棟に入棟する時はガンに対する積極的治療はできない…と言われていています。一般病棟e t cでは緩和ケアはがん治療は共にうけられるでしょうが緩和ケア病棟ではガンの治療はだめでしょう。緩和ケア＝その病気になっての苦痛をよりのぞく…という意味であるという事を説明なされていましたがもっと広めていただきたい…現状がそうなるように働き下さいますようお願いいたします
- ・とにかく情報が不足していると思います
- ・Hp 専門スタッフを増やして、早くたくさんの方が緩和ケアを早めにムリなく受けられるシステムをつくって欲しい。→スタッフ数の増加、教育を整えて
- ・今はモルヒネに対する悪い印象は殆んど無いと思います。医療者側の云いのがれと思う。それより緩和ケア体制が弱過ぎ過ぎと思います。各地域の緩和ケア体制の説明会の開催などが望まれていると思う。
- ・ホスピスと緩和ケアの違いを明確にしてすすめてもらいたい。当会の緩和はS o i P a l l i a t i r eでH o s p i c eは、貧困、社会的弱者、迎礼の行き倒れの方などの癒しとFRANC Eの辞書に出てます。フランス語で説明です。
- ・終末期医療、ターミナルケアのイメージが強いのでその払しょくをお願いしたい。医療用麻薬という名称がイメージ悪い。緩和薬等に呼称を変えた方がいい。緩和ケア病棟の普及
- ・病院だけではなく、在宅などで受けることができるよう、区市役所などがわかりやすく広告して欲しい（一般の人はわからないので）
- ・緩和ケア＝ホスピス、末期医療のイメージが全くないとは言えません。緩和ケアという言葉をもっとイメージの良いもの、わかりやすいものにも変わるというのも、考えていいのかなと思います。TVコマーシャルでも流されたら良いと思います。
- ・患者様やご家族に対する相談事業。緩和ケア医療者へのリエゾンなど。緩和ケア教育セミナー、実践の場の提供
- ・新聞を良く読んでるので、新聞にもっとのせてほしい。
- ・国民に緩和ケアを普及するためにテレビやインターネットを通して紹介する。また、麻薬に対してのマイナスイメージをなくすようにアピールして欲しい。
- ・もっと一般的に認知される方法（広報）を考えた方がいいと思いました（これからだと思いますが）。緩和ケアが特別なことでなくなるとういなどと思っています
- ・緩和ケアが広まらない理由を分析され、幅広い広報が必要だと思います。患者と医師の力関係が等しくなれるような社会を目指して下さい。また。QOL高めるための具体的な情報をどう伝える

かHPのみならず、多方面のメディアで知らせて下さい。

- ・もっと周知をしてほしい。今回初めて知りました。病気を軽く考えている人、重くとらえている人のすべてに知って欲しい事だとこのセミナーに参加して思いました
- ・一般市民だけでなく、多くの医療従事者にも、正しい緩和ケアについて普及されることを願っています
- ・緩和ケアのあり方やとらえ方をマスコミ等でとり上げてもらうことや、イベントを企画して広く普及してほしい
- ・テレビCMなども利用していければ、一般の方（患者さんも含めて）への普及にもつながるのかな、と思います。
- ・父は今春、尿管がんが肺、血液に転移して脚の骨の痛みには耐えられず私たち家族、医師に緩和ケアを勧められ、麻薬治療に入り、三日目に亡くなりました。父の為に薬は正しかったのか？とても不信です。医師の知識や（失礼ながら）力量のレベルアップも期待したいです
- ・もっと緩和ケアについて一般（医療従事者含め）に広く知らせてほしい（癌治療学会や癌学会などでも）
- ・どこのホスピスに行けばいいのかどこなら入れるのか、病院内で緩和ケアチームが有効に機能しているのか、などの情報を一般に周知してほしい。それは行政へのアプローチになるのでしょうか？
- ・インターネットの使用率が下がってきている（不況のため）と聞いています（←特に個人（家庭）の）。患者会に参加しても高齢者の方が、どこから情報を得られるのかわからないと言われます。もっと級媒体で昔のように情報を広めていくことが求められる気がします。〇〇に少し関わっていますが、緩和ケアの知識、技術の普及、を目的に活動しても「それ以前に、緩和ケアをわかってない」という壁が現状で、今の時代はまだ発展の前に普及なんだと思います。ぜひとも終末期のケアではなく、誰でも受けられるケアの正しい概念を浸透することを願っています。
- ・このプロジェクトについて全国の患者会に理解をひろげることが、「緩和ケア」の普及に有効だと思います
- ・たまたま実母は〇〇にある〇〇病院の緩和ケア病棟に入院する事が出来、本当によかったと思います。ただもっと早く本日の講演のように、早期から病院でも家でも受ける事が出来たらよかったですと感じています。又、治療が開始していく間までの外来通院時の主治医との治療になかなか進めてもらえず、それだけが心のこりでしたが放射線治療がはじまる事になり、スタッフからのインフォームドコンセントがしっかり行え、そこからの日々は納得出来る日々をすごせました。死を受け入れながらもやはり死ぬ直前に死ぬのがこわい、とホワイトボードにのこしたのが母の最後の言葉です。どんなに最善の環境におり死を受け入れた母でも人間としての本音を出して下さいました。つらかったが気丈に生きて来た母がやっと本音、弱音をはきだせたという事は母の苦しみとしてとらえなければいけないと痛感しながらも生き様を考えたら、その言葉を最後に言える環境でよかったとも感じます。ぜひ、在宅、施設どこでも安心して緩和ケア受けれるように活動ぜひお願いします
- ・初めて知った事業でした。“やがていく道”である事を認識して、緩和ケアをもっと一般的に考えていけたらと思います。
- ・緩和ケアの知識は多少あると思っていましたが、末期の方々が受けるイメージがありました。私の周りで緩和ケアを知る方でもそのイメージは強いと思います。初期段階から受けられるものとして広くイメージが広がることを願っています
- ・周知徹底してほしいし、緩和ケア病棟をもっと増やして、希望者が待たずに入院できる体勢を整

えるべきと思う。差額ベッド代のいらぬ病室も増やすこと。がん難民を増やすな！地域と大病院との連携をもっと密に！

- ・①積極的な普及活動を切望します②家族が出来る具体的な例を示して欲しい③緩和ケアを実施している病院・医院等の施設の開示を望みます
- ・情報提供。イメージ（先入観）の切り替え。緩和ケア先進国の事例などの積極的な紹介
- ・より多くの人々に緩和ケアを知ってもらえる機会をどんどん作って欲しいです。
- ・一般の認知度はかなり低いと思う。認知度を向上させるための施策を様々するべき。メッセージがわかりにくい。①「オレンジバルーン」＝②「緩和ケア」＝③「がん痛みケア」。①～③まで相当距離があると思う。まだまだプロモーションが必要。また、医師の教育
- ・緩和ケアのイメージアップ
- ・私の様に緩和ケアの言葉は知っていても、内容については知られてないのが一般的だと思います。痛みのコントロールだけではなく、心の問題の対応という事をもっとアピールしてほしいです
- ・市民はもとより、医療者にも緩和ケアのことを知ってほしい
- ・まず医療者の医療用麻薬に対する誤解を解いていく事を期待します。一般の方よりも専門職へのアピールが先だと思います
- ・「緩和ケア」を知る機会を多く作ってほしい。インターネットを利用しない年代の方にも伝わるように
- ・緩和ケアの充実は場所ではなく「人」だと思っています。麻薬で痛みが90%コントロールできるといっても、そういう方もいらっしゃいますし、うまくいっていない方もいらっしゃいました。そこに関わるスタッフの力量による差がないよう体制を組んでいただければと思います
- ・もっともっとマスコミ等利用して認知させてほしい
- ・ペインクリニックと麻酔科医の増加を期待します
- ・緩和（ケア）という語の印象が終末期、他に手段がない、いった印象を与えるので、別の印象を持たせてくれるようなイメージ作りを期待します。（実際には治療と同時に早期から用いられるものだと判ったのが今日の収穫です）
- ・高齢者にも広く理解していただけるよう進めていって欲しいです。
- ・地域に密接に関わって普及させてほしいと思いました。地方にも事業を拡大させられれば良いと思います
- ・緩和ケア→現在、適応外として用いられている鎮痛補助のくすりが早く認可がおりるようになればと思います。ピンバッチやノートやらグッズを作ることで、ピンクリボンやゴールドリボンなどの他のガンと同じように多くのヒトに知ってもらうことが大切だと思います（ボールペンなどの文房具やキーホルダーでもOKだと思います）。がん基本法の施行日を緩和の日のようにして東京タワーやいろんなタワーをオレンジにライトUPする。キャンペーンをメーカーもまきこんで行う。
- ・一般の人々の多くが緩和ケアという言葉を知り、内容を知ることによって誤解がなくなること（がんについての）
- ・緩和ケアの重要性を改めて認識致しました。私自身オレンジバルーンプロジェクトの事を知りませんでしたので、けいもう活動等を通してもっともっと輪を広げていって欲しいと願っています
- ・緩和ケアはやはり積極的な治療を止めた（あきらめた）患者に施すものという意識が根強くあり（医療者も誤解されている人もあるのではないのでしょうか）、まず、この考え方を早くなくすことをしていただきたい

11月 9日 東京ビッグサイト

- ・本日知ったばかりなので実態が理解できないが、このような活動は今後も推進してほしい。私も11年前（40代前半）でS状結腸癌を患ったが、医療よりも「心」や「治療費」にとっても悩まされた。この事業には是非この2点についても取り扱ってほしいと期待する。
- ・緩和ケアは癌だけに限った治療法であるとは思わないが主治医に麻酔をお願いしたが拒否された事例もあるので緩和ケア「オレンジバルーンプロジェクト」はより広く、より深く、より永くケイモウを続けるべきである。
- ・これからも普及のため、がんばって下さい
- ・緩和ケアについて余り詳しい事は知らない。まとまった知識として冊子の様なものがあればよく読んで勉強したい。ガンの知識情報と緩和ケアの知識・情報を一体としてトータルを知り勉強し認識してゆく事が必要ではないか。
- ・オレンジバルーンプロジェクトの件、始めて認識致しました。現在、自分自身が癌と戦っている身もあり、その上情報を得る為に病院（かかっている）以外の方向から個人的に提供して頂けるなら、心強いし、又気分的に安心感も得る事出来る。〇〇癌を治療するなら〇〇病院とか？
- ・「がん」治療を実際体験して、抗がん剤治療は、とても辛いものでした。治したい一心で、辛い治療は避けられません、戦いでした。気持ちが悪くなることもしばしばありました。（治しているのに身体は、どんどん弱っていく…感染症におびえたり…）そのような気持ちを支えてくれる事業がもっと身近にあると、患者の方々は救われると思います。医師は治療はしてくれますが、多忙もあり、なかなか心の辛さまでは目を向けてはくれませんのでその橋渡しをしてくれると良いと思います。
- ・緩和医療の充実に期待。緩和ケアの拡大・浸透・発展が待たれます。地域で身近かに早期に利用出来る様になり、在宅で治療に努めながら、ガンと共生出来ること期待。ガン患者になった時点で、家族を含め緩和ケア治療の説明の機会が（地域などで）セットされるようにならないか。
- ・普及させるレベルを目標を定めて、いつまでにどの位とするか、明らかにしてもらいたい。痛みなく過せば、がんもこわくなくなると思います。
- ・人それぞれ状態が違うので、それぞれに合う満足のいく対応を希望しますが、それを相談できる所が今現在ない（主人が現在肺がんですが、妻としてどうことばをかけたらいのかすらわかりません。）
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」についてもまだ十分な知識がありません。（自身、がん発症から満1年ですので）これから少しずつ勉強して理解していくつもりであります
- ・いろいろな情報を多方面から提供して下さい。
- ・多くの人の認識が高まるように、有効な、方法と思います。
- ・これからも、もっと勉強していきたいです。
- ・ネットワーク、と、近域の広がり（特に地方）
- ・今日開催された時のパンフレット等で初めて知りました。これから、高齢化する中で大いになるうる事なのでもっと多くの人に知り得る機会をふやして行く必要があると思います。私自身、家族のガンで初めて知ることとなり、もっと早く知っておけばなどと思います。本日参加して大変よかったですと思います
- ・自分は転移再発なので条件が悪いかと今ホスピス、その費用など現実の課題に悩みをもちしております。
- ・緩和ケアは終末期のみと考えている人、又医療用麻薬が長期間使用していると習慣性が出ると考えている人が多い。ぜひPRして周知を計ってほしい。疼痛をやわらげる薬材を色々と開発して

ほしい。

- ・病気になった関心を持つようになったが病気になる前の人達にももっと身近に感じる事ができる位に広めて欲しい。
- ・ガン手術を行える病院全てが出来ることなののでしょうか。J P A Pとのちがいは
- ・ピンクリボン、ゴールドリボンのように、もっと誰もが知っているという環境を作るべき。私も新聞、雑誌をよくみる方だが知らなかった。もっと、癌患者に正しい理解を知らせる場他もうけるべきである。
- ・医師のだれもが緩和ケアの心がけをもつようにフォローアップをお願いします。
- ・緩和ケア＝ホスピス的な意識が根強くあると思います（現時点で母ががんを患っています…そう母も強く思っています）。主事医の先生や外からのネットワークで体・心の痛みをとるもの…情報が欲しいと思います（情しい情報）
- ・現状理想的面と現実面とのギャップがありすぎるように思う。普及により正しい緩和ケアが浸透して国民ががんを恐れず治療に当り又ボランティア等も気楽にできるようになるよう事を強く願います。
- ・どんどんPRをしていただきたい。
- ・広く皆が理解することだと思います
- ・そのような名前の“プロジェクト”は政府のどんな組織・機関がどのような手段・方法で、どんな事を行っているのか、知りたいものです。他のこの方面での先進国の取りくみ状況も知りたいと思います。
- ・費用の援助、心と体の緊張感が取れるよう医療や施設かんれんの者の言葉の使い方、受け止められる人間の養成
- ・できるだけ多くの方に「緩和ケア」の知識が広まることを希望します。
- ・緩和ケアをされる専門の方が各自治体（市、町、村）単位に置かれることを希望いたします。
- ・「死」を受け入れる普段の心情が必要だと思います。そのために学習、PAが必要です。心（メンタル）面のケアが遅れている現状を改革する必要。
- ・今年7月母を肺がんで亡くしました。緩和ケア病棟で、先生に最後は苦しまないでいけると約束して頂いたことで、不安と苦しさや闘いながらも、最後は本当にやすらかに息をひきとったことは、本人にとっても家族にとっても救いでした。緩和ケア＝終末というイメージがいまだあるのでもっと早くから緩和ケアを受けた方が看者も家族も楽になれると思います。そういう意味でもオレンジバルーンプロジェクトの普及は大切です
- ・多くの人に知ってもらえるチャンスを増やす
- ・目にすることがないキャッチフレーズなので、もっと説明が必要。又は、メディアへのアピールが必要
- ・もっと大々的にPRすべし
- ・地域の病院でも普及し、相談しやすくしてほしいと思います。緩和ケアのパンフレット等身近に手に入るとよいと思います。費用等
- ・がんの終末期に最後に入るという暗いイメージがまだあるように思われます。もっと広い意味で、がん患者がいつでも出入りできる場にして頂ければ、明るいイメージの前向きな場所として、皆の集まれる所にして頂きたいと思います
- ・医師が都内でも少ないといわれている中で地方ではガン患者とゆっくりと（予防）、治療について話し合いができていのでしょうか？先生方も大変苦勞されている事、日々努力されている事、患者をいかに痛みからとり除いてあげられるか、やさしい手術の仕方等勉強になりました。あり

がとうございました

- ・一般庶民への啓蒙活動を広く積極的に進めて頂きたい。
- ・「緩和ケア」という考え方はまだ一部の人のみの知るところだと思います。もっと広く多くの方がその考え方を知り「もしもの時」の不安が少しでも少なくなるような「周知」に期待します
- ・緩和ケアのプロを育成する専攻科目が医科系大学に無い（or 僅かにある）と聞いています。ガンだけに限らず、ますます高齢化する社会事情にあって、病院のような専門的施設に限らず、在宅での緩和ケアも支援できる人材の育成とその機能を発揮できる制度・システムの整備が急務ではないでしょうか。
- ・新聞テレビ、ラジオ等あらゆるマスコミの手段で全国民にP. Rしていくべき。学校教育（小学校、高学年、中学校）でもっと教育していったら如何ですか
- ・相談窓口があることを期待します。
- ・今後、益々活動されんことを期待します。一般の人にもっとP. Rして下さい。
- ・がんの告知と一緒にこのプロジェクトも説明し心の不安とQOL改善の施策に取り組んで下さい。
- ・もっと広くマスコミ、政治を活用して国民に周知活動をしていただければ幸いです。
- ・出来るだけきめ、こまやかな普及宣伝を期待
- ・もっともっと一般的にアピールして存在を知らせてほしい
- ・緩和ケアをどの地域でも受けられるようなシステムに早くしてほしい。
- ・各人の症状に合わせて出来る限り速やかに安価に受けられるようになる事を望みます。
- ・患者本人が少しでも楽になるように緩和ケアを受けられる病院を増やしていただきたい。これは家族にとっても安心につながるものとなる重要な課題と思います。
- ・医療費の軽減を望みます。葬式無用です。（年金の8割が医療費です。（国保負担30%なので3万円—おクスリ代、1万円—CT代、6000円～10000（超音波代、診察代。現在IV期ですが末期になると貯蓄で支払い切れなくなるのではと経済的負担にも心が痛みます。1ヵ月…¥50000円
- ・緩和ケア病棟に入院はなかなか出来ないと聞いていますがどうなのでしょう。希望してもあきがないと入れないとか
- ・認識度を高めるため、もっとPRしてほしい
- ・益々の発展を祈ってます
- ・誰れもがガンになる可能性はあるので、緩和ケアにより笑顔で治療を受けられることは良いことであり、年令に関係なく多くの方が自分でできる範囲で、ボランティア養成で住いの近くの人達がかかわれるようなシステムを作してほしい（〇〇市の〇〇病院のホスピスのボランティアを受けたいが、日程があわずに残念に思っている）。今回は緩和ケアにひかれて応募した。
- ・現在では、ガン患者の多くの事は現実的恩恵を受けていない。“ガン”とは、苦しいもの、痛いものとの概念が患者、医者、一般人に残っていて、払しょくされていない！！
- ・費用の問題です。たぶん費用のことで受けることはむずかしいでしょう。残念ながら
- ・ボランティアについては疑問がある。スキルが低ければ、かえってケアどころか患者がキズつく。人材の育成がきちんとなされてるのだろうか？がん治療にあたっている医療者でもスキル・モラルが低い人がいる。素人で大丈夫？緩和ケアについて関心が有りますが、まだ情報が少ないです。痛みのケアとせんもうのケア、どのようなタイミングで、どのような症状があるか、どのように対応するのか等、具体的な事を知りたいです。
- ・もっとセミナーや講演会を開催し広く日本に浸透することを期待します
- ・緩和ケアは病状の痛みだけを取り除くと思われている人が多いと思う。もっと心の不安ケアもあ

- ることをもっと広めてほしいと思う。又、その機能を増加して欲しい
- ・緩和ケアを選択又は受けた患者数のうち生存年数（又は月数）についての統計が知りたい。全国の緩和ケア専門病院数と所在地は？その他、緩和ケアの実情を示す、グラフなど視覚を通じての実情認識を普及のメリットにしたい
 - ・ガンバッテ下さい。
 - ・今まで全く無縁とっていて「ガン」という病に主人がかゝりいろいろと初めて知ることばかりです。今は抗ガン剤、放射線と治療の効果が出ており希望を持って治療中です。今後またどのような形で緩和ケアが又身近になるかわかりませんがこの病に光があてられより良い生命、人生をおくれる様になりますこと期待しています
 - ・まだそこまできません
 - ・恥ずかしながら今日のはじめて知ることになりました。ピンクリボン、オレンジリボン、ブルーリボンと同様にもっとメジャーになることを希望します。
 - ・種々のツールを用いてもっともっと社会への普及に力を入れていただきたい。
 - ・病院の相談窓口等と連携して多くの人目にとまるよう活動して欲しいです。
 - ・妹が大腸ガンのOP後痛みで長く苦しみました。医師に訴えても、精神的なものとうけとられ、精神安定剤のような薬しかもらえませんでした。医師の理解を深めるけいもう運動を深めてください。今後はかんわケアの場所をしらべてがんの治療と併行してケアを行って行けると思います
 - ・担当医とのかかわり方がわからない。地域での情報収集法がわからない
 - ・高寿命化により増々がん患者は増加方向と考える。従ってがんの治ユと同様緩和ケアの必要性は高まるはず。行政はもとより、種々のサポート体制の確立は不可欠である。「オレンジバルーンプロジェクト」の果す役割は小さくないと考える
 - ・医師もまだ麻薬についての誤解があるため、正しい情報の普及を望みます
 - ・現在、がん治療中です。手術後から今日まで痛みがとれません。（約8ヶ月）毎日痛みがあり仕事や眠れない日々です。落ち込むこともあり何とかしたいと思っています。くすりにはあまりたよりたくないで処ほうされたくすりは飲んでいません。こんな場合はどうしたら良いのか相談場所が分かりません。分かりやすいHPなどあればと思います。
 - ・緩和ケアをする病院があまりにも少ない現状でもう少し医師、看護師、ボランティアなど人数をふやして緩和ケアをうけられる人が一人でも多くうけられるようにしてもらいたい
 - ・終末期だけでない、幅広いケアを期待している
 - ・もっと一般市民に知らせる必要あり
 - ・ガンのぼくべつに努力されており感謝いたしております。今後も一層のご活躍を期待しております。〇〇県内の一住民より（80才）
 - ・末期だけでなく初期段階から緩和ケアの受けられると言う考えを医療機関や従事者に全国的にもっと広めて欲しい
 - ・緩和ケアの認知度が日本国内において低いことがいじめない。それは患者、家族に対してももちろんだが、がん診療拠点病院の医療者においても精通しているとは言い難い部分がある。やはりがん治療における「緩和ケア」の重要性の認知度を上げることが、まず国内においては課題であると思いますので、その成果をこの「オレンジバルーンプロジェクト」に期待します
 - ・町会誌などより身近なものを使って回数多く記載され浸透するように…
 - ・情報が得られ易い社会になり、患者側の認識が高まっていると思いますが、まだまだそれに応えられる医療者が十分ではないと感じます。医療者への普及（人間性の充実も含めて）も具体的にすすめて頂きたいと思います

- ・ラジオ、テレビ等一般的メディアでの報道、周知を期待する。
- ・実は知りませんでした。誰もが理解して必要なとき利用できて、不幸な治療生活の中で一時でも心安らぐときがあってほしいです。
- ・すべての医療関係者により看者にプロジェクトのある事を知らせてほしい。治療法がないと言われてからどの様な生活を送れば良いかアドバイスをしてもらえなかったのが在宅治療をさせたかったが間にあわなかった。自分の逸強が足りなかったのかもしれませんが？
- ・ガンにかかる人々が増えている今、もっと（力強く）（早く）事業進めてほしい
- ・啓発活動にとどまらず、実際の療養生活に役立つように、医療関係の整備を急いでととのえてほしいと思う。
- ・より積極的なPR。内容、施設の紹介
- ・情報の集収の仕方を知りたい
- ・いつでも、どこでも、ガンが見つかった段階から心・体のケアが受けられる社会基盤作り
- ・〇〇市内で、ガンのシンポジウムを何度か聞いて、今回は東京にも聞きに来ました。広く、この様な機会がある事を情宣して下さい
- ・地方の医者および関係者への周知が、まず大切だと思います。（母親の場合、いつも痛がっており楽にしてあげられたらと思っていました。痛止めの薬も頂いていましたがあまり効果がなかったのではないかと感じていました。）
- ・各病院で知らせて欲しい、掲示も
- ・ケアも大切であるがガン撲滅の国民運動、医療技術の向上が大切
- ・より一段の広報・教宣活動が必要だと思います。私は残念ながら、この言葉を聞いたことがありません。
- ・もっと多くの人に理解できるように普及していただきたい。
- ・緩和ケアを受けたい人が適切な治療費で十分な治療を受けられること。

12月21日 神戸ハバ・ラント・スパ・シアター

- ・多くシンポジウムを通し広げられて下さい
- ・私の伯母は5年前直腸がんの手術を受け、再発して再入院し、一般病棟で痛みがとれず、帰宅して、モルヒネを1週間毎にもらいに行き、近所の医師に応診をたのんで、服用したが大変な苦しみであった。その後めいである私が日本在宅ホスピスケアの全国大会に参加して、元〇〇病院ホスピス医師が在宅ホスピスをされていることを知り、紹介した。〇〇先生はお盆も休まず応診して下さい、伯母の苦しみは少し楽になったが亡くなったのが4年前。在宅で伯父が看とったが、早くに知っていたらあそこ迄苦しまないですんだのに…と“知らない”“知ろうとしない”ことを悔やんだ事と思う。
- ・もっと身近になるよう、官民が強力して広報活動をしてほしいです。
- ・緩和ケアについての正しい知識を身につける機会を増やしてガンになった際に実際に受けられる病院を情報提供してほしいです。
- ・総合病院等で、どんどんPRしてほしい。
- ・ありがとうございました
- ・〇〇県〇〇病院で4年前と3年前手術を受けました。今私は検査を受けながら通院中です。現在みつかっているがんはありませんがいつか私でも私以外でも役立つことがありわざわざやってきました。ぜひこのプロジェクト〇〇県でもお願い致します
- ・地方でも緩和ケアがうけられるような体制をよびかけてほしい
- ・私の父が肺がんにかかって死にましたが、死ぬ1年ぐらい前から生活があれはじめ酒を大量に飲

んで、暴れる等、家族は大変でした。ですから、緩和ケアを受ける本人だけでなく、家族もサポートする体制を作ることが大切だと思います。

- ・在宅でのケアに期待します。できる限り自宅ですごしたいし、すごさせてあげたいので
- ・全く情報がないので病院などの窓口での告知等して下さい
- ・ガンの治療に対する正しい知識を得る機会として
- ・とう痛緩和の治療は、患者さんや世間的な抵抗感や誤解がもとで広く浸透していない事は以前から聞いた事がありました。その誤解を解いて知ってもらうというキャンペーンは意義のある事だと思います。今回は日頃聴いているラジオ番組での呼びかけに興味を持ったのですが、まず興味なかった人に興味を持ってもらう工夫が大切かと思えます
- ・もっとあることをアピールする
- ・まだまだ知らない人も多いみたいなので、まずはテレビの情報番組などで、紹介してみてもどうか。
- ・もっと多くの人に知ってほしい。笑いを作る芸人の人とのれんどうとかもしてはいかが？
- ・より多くの方々に、現代の大病「がん」に関する正しい知識と治療を認識できるように、今後とも多くのメディアなどで取り上げてもらいたい。
- ・緩和ケアのことを広く世間に知らしめて、医師に緩和ケアのことを相談しやすい環境を整えて下さい。
- ・麻酔、ペインクリニック外来勤務しています。各科より疼痛コントロール目的で紹介を受けます。しかし、元科の医師は“痛みに関してはペインにまかせた”という考えが強く、なかなか連携が保てていない状況です。元科である外科や内科等の医師にも緩和についてもっと広く理解して頂きたい。広めてほしいです。
- ・患者本人だけでなく、家族の者のケアについても、知ってほしい。
- ・地域によって、このプロジェクトを知っている人の差が出ないようにしてほしい
- ・はじめての取り組みで注目も高いでしょうから、ぜひ成果を残して下さい。予算の方も気になります。
- ・心のケア
- ・これからも多くの方に緩和ケアについて、知って戴けるような広い活動を期待しております。
- ・PR活動！
- ・一般の何も知らない人にも情報が分かるように身近なところで宣伝してほしい
- ・メディアへの露出を増やしてほしい。
- ・言葉を聞く限りは、「苦痛からの解放」のような、末期的症状に対する手だてのように思える。私自身としては、根本的な部分に対して治療ができる手だての研究を期待したい
- ・これからも現代医療のために貢献してほしい
- ・〇〇という土地柄なので、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、ベトナム語の資料があれば、ありがたいです。
- ・医師に対して、もっと広めていていただきたいです。医師の緩和ケアに対する意識が少ないことに驚くことが多いです。私は薬剤師ですが、もっとチームとして患者さんの痛みを取り除く活動をしていきたいと思えます。
- ・これから、色々な場所でイベントを行って頂いて、「オレンジブループロジェクト」の事をたくさんの人に知ってもらう事をして頂きたいです。インターネットが普及したとはいえ、やはり実際にふれあう事により、広がっていくと思うので…。あと、マンガ化するのも良いと思えます。「文字だけの本は読みにくいけど、マンガなら読める！」という人もいるので（実際、私はそう

いう知識を主にマンガから仕入れています—介護保険、メイク・ア・アイッシュュ、白血病、骨髄バンクなど)。

- ・OBPの事をより多くの人に知ってもらえる様にする
- ・プロジェクト自体を知らない人が多いと思うので、もっと色々な所で開催してほしいです。
- ・どの医療機関でもある程度等しく受けられるようにしてほしい。対応している病院をわざわざ選ばないといけないのはめんどろではないかと思う。ふだん見て頂いている主治医に対応してもらえれば安心ですし。
- ・医師の教育をのぞむ
- ・「24時間テレビ」への出演
- ・病院等の医療施設での緩和ケアだけでなく、今後家庭、在宅での看護緩和ケアについての現状や方向性について知りたい。それを広げて欲しい。
- ・だれでも気軽に身近に利用できる様になることを期待しています。
- ・どこの病院でも受けられるように
- ・まず、緩和ケアという方法があつて、それがどういう状況で受けられるか、という事自体僕もそうでしたが全く知られていないと思います。第一にそれを打破する事が、次のステップに移行する第一歩であると思います。このプロジェクトを通じ、1人でも多くの人に緩和ケアを「知って貰う事」が出来る様、期待します。
- ・病院は3ヶ月たつと追い出される(治療費、国の制緩)とよく聞かされてこわがっています。有料老人ホームはお金が足りなくて入れそうにない。家でも一人ぐらしではくらせない。病院で3ヶ月といわずにみとってほしい。だったら死まで安心してすごせます
- ・全ての病院でも緩和ケアを相談し、受けられる体制になるようお願いしたい。〇〇先生の言われたような、あたりまえのこととしてケアを受けられるようお願いします。
- ・テレビなどの公共放送で活動を紹介してもらう様にしてもらいたいです。
- ・在宅での整備
- ・市民に対してのシンポジウムを行って、啓発活動をしていて素晴らしいと思います。今後も多くの場所で何度も開催して行ってほしいと思います。
- ・緩和ケア病棟の充実。在宅ホスピスの質の向上のために医療関係者の研修の充実や、TVなどによる家族や本人の学習のチャンスを増やすような啓発活動
- ・どうしても、患者側から緩和ケアを受けたいと主治医に話すと、治療をあきらめられるのではないかと言う不安があります。まず医療関係者の側があたりまえの事だという様になって、すすめていかないと不安です
- ・父が2年前にすいぞうがんで亡くなりましたが自分はこれということではできませんでしたが、先に知っていれば何かやれたこともあったかと思しますので、知識を広めるためにがんばってください
- ・軽い気持ちで参加している者の意見だということをおわびしておきます。『メディア展』医療マンガ花ざかりの昨今、取りあげてもらわない手はないですよ。あ、でも「Dr. コトー診療所」とか「ブラックジャックによろしく」とかのダウン系はダメですよ。「スーパードクターK」や「ラディカル・ホスピタル」等、お笑い要素もありながらしっかりした取材をされている作品がオススメです。
- ・がんは、「そんなに恐くない病気だ、大丈夫」と、本人、その家族が前向きに治療に取り組んでいけば、いいですね
- ・周知。世の中の意識改革。「(患者が「痛い」と言えば「ガマンが足りない人」「帰りたい」と言

えば「ワガママな人」と人格が貶められないように)

- ・医療従業者内、特に医師に対する意識改革をして欲しい
- ・もっと皆に知られ、一般的になるといいと思う。日本はとにかく我慢するのが美德とされている国なので
- ・こういうシンポジウムを中心に、口コミで「緩和ケア」という言葉を広めていって下さい

1月25日 東京国際交流館

- ・イメージがよく浮ばない。
- ・地方の来場の医療機関にも広くこの主旨を伝えて、各患者に広めて先々の不安を少なくして欲しい。
- ・施設、方法を含め情報の入手手段（特に地方に住んでいると…）が少ないように思われます。より広範囲なPRを望みます
- ・心理士にできることはあるのか…。
- ・私は母が緩和ケアのお世話になりました。ですので、緩和ケアを知ってはいましたが、やはり家族など、身のまわりの人ががんにならないと、なかなか、緩和ケアというものを知ることができないと思います。いきなりがんの告知を受けたら、治療ばかりに気がいってしまい、緩和ケアまで考えが及びにくいと思います。健康である時は、それが当たり前感じてしまい、医療についての知識はなかなか知ろうとはしないと思います。ですので、そういう健康な人でも興味をもてるように、少しでも多くテレビや新聞で紹介していただけたら、いざ病気になった時に、役立てられるのではと思います。
- ・1. パネリストの方からも、在宅で痛みが出た時に問題である」旨あり、また、市民の意識啓もうの面からも、厚労省等から予算を得て、CMのスポット放送を行ってはいかがでしょうか。2. 前々から患者さんの闘病記録等に接することが必要だと思っていました、ますます重要であると感じました。
- ・このような、市民向けの啓発をすすめてほしい（各地域で）
- ・①がん対策推進基準計画で2つの目標の1つに緩和ケアにかかわって、患者・家族の生活の質の向上があげられているが、死亡率については数値目標があるが、QOLについては何の指標もない。ぜひ大規模な患者家族へのアンケートによって、QOL改善を見えるようにとりくんでほしい。緩和ケア医療学会が中心になって進めてほしい。②緩和ケアの年寄が減っている、あるいはふえていない。ぜひ厚生労働省に働きかけて下さい
- ・米国なみの痛み止めができるようにしてほしい。（くすり、ケア一法など）
- ・シンポジウム開催を定期的に行っていただきたい。家族も同伴すればよかったと思いました。（次回より一緒に参加したい）
- ・TVで特集などあればぜひ見たいと思う。ドキュメンタリーなど。
- ・医学生や一般市民だけでなく、コメディカルやケアマネージャーに対する緩和ケア普及のための講座を開いてほしい
- ・看護師を対象とした研修・勉強会を是非お願いしたいです。緩和ケア、心身の支援の実践的な方法、症状のメカニズム、薬剤についてなど
- ・（乳癌患者の立場から）（殊に骨転移について）外科の先生は「症状が出てから治療はおそくない」とおっしゃり整形の先生は「症状が出ている状況は、相当骨が破壊されているので、良い状態にもどしたいと思っても手を打てないことも有ります。だから、症状がないうちから（＝早期の段階から）定期的な骨の検査は必要」とおっしゃります。→術後の定期検診の考え方も、いっしょに考えてゆく必要があるように感じております。（痛みを出てからの対処のみだけに視点を置か

ず、少し手前のことにも口をはさんで頂きたいと思います)

- ・緩和ケアということばのもつイメージを、明るく、あたたかいイメージにしていてもらいたい。安心感につながるような
- ・地域の中の医師の教育に力を入れて下さい。住民が相談に行ける場所を明確にして下さい。地域差をなくす（拠点病院が機能することなど）
- ・一般病院でも緩和医療がうけられるよう、Dr、Nsへの理解を深めて下さい
- ・市民だけでなく、医師等医療者への啓発を行ってほしい
- ・セミナー等に参加できない人、インターネットを使える人達への活動
- ・今回のような講座の開催を今後も期待しています。
- ・このようなシンポジウムの開催を定期的に行って頂きたい
- ・緩和ケアの普及
- ・がんに罹患された患者さんと家族によりよい医療が受けられるように日々活動を行っていただきたいと思います。
- ・①患者自身、家族に対する、今以上の同プロジェクトの周知②さらに患者自身に希望感・安心感を与えるための、そのプロセスの追求
- ・医療従事者の中でも、緩和ケアのがいねんがあいまいであるので、病院などでも講えんしてほしい。
- ・ガン拠点病院の分院に現在夫が入院中ですが、緩和ケアへの取り組みはないとのことでびっくりいたしました。今日常生活のQOLが注目され始めましたが、癌に限らず病全般に緩和ケア精神の必要性を感じます。今日はよく学び緩和ケアの必要性を広めてゆきたいと思います
- ・知らない人が大勢いるので、もっと広げてほしい。どんな内容なのかを拡めてほしい。広めるチャンネルが少ないのではないのでしょうか？
- ・緩和ケアはどこでも受けられると言われましたが、まだ一般の病院の医師に普及していないと実感しています。私達の身近にいる一般の病院医師（全国どこでも）が緩和ケアについて正しい知識を持ち、実行できるよう、至急行動して戴きたい。
- ・「緩和ケア」という言葉は、割合知っている人は多いと思いますが、中味について十分理解されていると思えませんので、プロジェクトの意義はとても大きいと思います
- ・医療者がもっと知識を深め積極的に緩和ケアにとりくめるよう普及させてほしいです
- ・医療従事者への認知
- ・緩和ケアがいつでも受けられる様、病棟、病床を増やし、待ち時間などというものがなくなる様、ケアの充実の為に頑張って活動していただきたいと思います
- ・色々な団体といっしょになって、国民の全体に正しい知識を拡げて行ってほしいです。
- ・本日のようなシンポジウムや講演会を地方の都市や地域で、その地方の専門家とともに開催できる様に後押しをしていただければ…と思います
- ・緩和ケアを理解でき、大変有意義な時間を過せました。ご苦労だと思いますが全国でこのような会を開催し、万人の共通知識になればと思います。
- ・家族にがんをわずらった人たちに（本人も含めて）、正しい情報やサポートをよろしく願います。
- ・緩和ケア病棟をもっとたくさん作るよう働きかけて欲しい。ケア病棟に入るのに順番を待つ必要がないように。これからがん患者が増えてゆく（高令になっていくに従って）ので、疼痛治療をもっと宣伝して欲しい。そして医者への再教育を。
- ・もっと多くの人に知ってもらうためにも公民館など身近な所で勉強会を行ってほしい

- ・継続して行って欲しい
- ・まず一般の医師に医療用麻薬の正しい知識を持って欲しい
- ・一般市民に良く理解される様けいもう活動が期待できる
- ・認知度がまだ高くないので広報活動を増すこと
- ・緩和ケア病棟が少ないと思います。もっと沢山あれば順番待ちなどしないで済むと思います。
- ・都内だけでなく、地方や医療が届きにくい所でも在宅の緩和ケアができる体制を国が作って欲しい（予算を付け、事業として行っていく。）
- ・がんの患者様が苦痛がなく普通の生活ができるよう病院のDrも知ってほしい
- ・もっともっと地域に患者さんが生活する身近かな場所で痛みや不安を軽減する場所（施設）と人（正しい知識を持って相談を受けられる）機関が増えるよう、活動を広げてほしい
- ・オレンジバールンに限らず公益性公共性をもつ団体の活動は広く社会的拠金によって支えられるべきで、現に米国はじめ多くの国でそのようになっている。日本は税法がこれを大きく妨げているが、税制を改めて、そうした拠金はすべて課税対象額からの金額控除を務めること。受取る側も所得税は免税とすることにより、必要な領域に長ある人々からの資金流動を妨げない事が、社会が人々を支えることが出来るシステムには不可欠で、所得再配その観点からも望ましい。N G Oや市民は連携してそのような主張を行うべきと思うが、オレンジバールンもこのことについて熟考し声をあげられたい。
- ・福祉・臨床心理・哲学・宗教等、その人（患者）にとって最も効果的なケアチームの組み合わせを組織化するのは誰で、そのようなリーダーシップを発揮すべき役割はどの職種なのか。多分、ガン（→ガンにかぎらず一般論としても）の進行状況によって変化していくものと推察されるが役割が分かっていたら組織化もスムーズになるのでは
- ・医師でも薬に対して間違った認識を持っている方がいるので、もっと啓発してほしい
- ・自分は一航病棟で勤務するナースです。緩和にはとても関心があります。当院もがん拠点病院ですが、実際「緩和ケア」の大切さを認識している現場の医師は数少ないです。医師がわかっていないので、目の前に患者さんを早く「緩和ケア」にかけられずもどかしい日々が続いています。とにかく、医師にもっと「緩和ケア」のことを知ってもらいたいです。皆さまの広告と活やくを期待しています。
- ・地域差をなくすべくさらに活動して欲しい。ここに来ている人は関心のある人達なのでさらに広く普及するよう願っています
- ・趣旨はわかるがもう少し緩和ケアがターミナルと同じだと考えている方々にも受け入れやすいキヤッチコピーのポスターを作してほしい
- ・わかりやすい、聴覚に訴える勉強会をぜひ企画して行ってほしいです
- ・まだまだ、社会に普及していないのが現状だと思います。病院で勤務してありますが、緩和と聞くと終末期、もうダメだと思ってしまう。正しい認識をまずもってもらえるようにしてほしいです。広告を多くするとか、こういうセミナー等がふえるとか、病院でせんでんするとかですかね。
- ・緩和を専門とする医師ではなくガン治療に関わる医師が緩和に興味をもてるように
- ・緩和ケア病棟に入院するには、保険外のお金がかかること、特に室料が高いこと（都内は特に）は知られる必要があると思います。その周知をぜひおねがいします。緩和ケア病棟のすばらしいことはかなり周知されてきたと思いますがお金もかかるのだということを知らないと実際に必要な時に利用できない人がたくさんいます
- ・身体疼痛とともに、スピリチュアルペインについて、啓発活動に力を入れてほしい。全人的ケアに取り組むことが、緩和ケアであることをどこの都市でも、情報が得られるような窓口があれば

良い。行政が担うべきと思う

- ・緩和ケア、医療用麻薬に対する悪いイメージを、良いイメージに変えさせ、患者が苦しみを取り除くことに早い段階から積極的にかかわれるよう啓もう活動を宜しく願いたい。
- ・無理かもしれないけど患者さんの生の声を聞いてみたい
- ・身体や心のケアについて多くの人に理解普及して貰いたい。まだまだ国のPRが不足しているので、このプロジェクトに大いに期待して居ります。医師、看護師、医療従事者へのけいもう、普及活動推進を期待しております。現状まだまだ不十分と思います
- ・医師達の学ぶキカイが増える取り組みに、力をそそいでほしい
- ・先ず病院、医師に広く普及して欲しいと思います。
- ・医師が正しい緩和ケアの知識を持っているのか？持っても患者や家族に知らせてくれなくては、どんな良いケア方法があっても有名無実。是非、医師への啓発をもっと強く行って欲しいです。地方でも等しくこの事知るchance与えて欲しい。
- ・啓発・普及を目的にするということは理解できるが、「緩和ケア」の内容自体が充実することを望みます。活動の歩み具合が遅いのではと懸念されます。個人的には「緩和ケア」についてはわかっているつもりなので、1日も早く具体的なケアを気軽に便利に安価に受けられるようになりたい。現在かかっている病院には緩和ケアチームはない。精神科にかかっているが、がんの緩和ケアの視点を持っているように感じない。
- ・チラシ等は乳癌検診や子宮癌検診時などの時にも配りまだ癌になっていない若い人達にも知ってもらうようにして欲しい
- ・認知度の向上…言葉すら知らない人がまだまだいる。誤解をなくす…緩和ケア＝末期治療のイメージ
- ・「緩和ケア」という言葉に対して、まだまだ拒否的な人が多く患者さんよりも患者さんの家族が特に多いです。多くの人に緩和ケアの必要性を知ってもらいたいので、普及させてほしい。医師のやる気のなさを感じるので、もっと医師に緩和ケアを広める方法をさがしてほしいです。
- ・緩和＝最期、モルヒネ＝死期が近い、怖いというイメージがあると思います。病院で働いていて思うのですが、緩和ケアチーム対象になったからではなく、化療中など早期の段かいから関った患者さんとは互いに緩かい心ケアができたと思います。がんとわかった時点から不安を聞いてくれる、痛みやわらげる方法があることを知って頂き、安心して緩和ケアを受けられるようになればいいと思います
- ・緩和ケアに熱心なドクターが増えてきたのはいいことですが、病院によっては、緩和ケアに熱心なドクターと仲が悪いドクターがいて、たまたまその人が主治医になってしまうことがあるとうまく紹介してもらえない。複数の友人のケースで、友人の親ががんで発症したとき途中で友人が親の主治医に緩和ケアとかホスピスとかいう言葉を出して質問したとたんに嫌な顔をされたり、否定されたりしたということをききました。せつかく一般人の認知が上がってもこれでは困ると思います
- ・Dr. に対する意識改革、看護師、薬剤師の育成。オピオイドから消炎鎮痛剤へ変更してENTしたpfがいます。もっと痛みを和らげられたはずが…理解なく残念に思っています。
- ・地道にシンポジウムや研修会をひらき、医療者、国民の理解を促進して欲しいです
- ・思っていたよりも、緩和ケアが医療現場に普及しているようで、心強く思いました。私のお世話になっている病院では身体的痛みには、すぐ対応して下さいますが、精神的な痛みについては、相談する糸口がありません。もっと、医療現場、患者ともに、使いやすい緩和ケアの進歩に期待します。

- ・特定の病院のみしか普及されていない感じ。癌難民を減らしてほしい。
- ・がん拠点病院を中心に緩和チームの在り方や緩和ケアに対して具体的なスキルの教育を実践して行ってほしい。県単位での勉強会を是非設けてほしい。又、患者教育を同時に行ってほしい。
- ・認知度アップ。5年間に10万人の医師に緩和ケアの教育をするとのことですが、具体的に、どのような教育で、10万人の医師がどのくらいのボリューム（インパクト）なのか、イメージがわかりません。その辺りを明確にすることを期待します。
- ・Dr. Nsの方々が熱心に活動しておられることに感激しました。特にDr〇〇の山本リンダの写真（映像）。
- ・より多くの啓発活動を行って下さい。
- ・誰もが普通に情報を得られるようになること
- ・緩和ケア＝ターミナルケアの誤解をとくこと。ケアが受けられる施設の紹介
- ・緩和ケア＝終末というイメージをなくしてほしい。忙しい医療者に普及してほしい
- ・看護をする側の看護師が介護の大変さからか、手のかかる患者に対して発するぐちや不満の言葉を軽々しく発する看護師の姿勢やあり方の教育をして欲しい。医療業界には、プロ意識の足りない看護師が多すぎると思う（目立つだけかもしれないが…）。そういう看護師がはびこらない世界であって欲しいと強く思う。
- ・まだまだ「終末期」の医療のイメージが強すぎ、抵抗感のある人が多い。啓もう活動の強化が必要。
- ・緩和ケアの総論～一般論は良く情報が入ります。しかし、私の自宅の地区での具体的情報がなかなか入りません。実体は近隣の方で実際に受けている方に話を聞く必要があると思う。
- ・最低限の知識（医療的緩和ケアの方法）が日本中の医師・病院に共有されることを祈ります。医師はあきらめないで欲しい。緩和ケアと同時に治療にも力をいれて欲しい（見放さないで欲しい）
- ・“緩和”という言葉にまだまだ抵抗のある人が多い。娘の私が医療者でありながらも私の父母もそんな一人だ。早く一般的になってくれればと思う。また、私自身もプロジェクトの末端で参加していければと思う
- ・（どこの病院でも緩和ケアを受けられる様に。専門医を多く（ケア、治療共に）。専門医忙しすぎる。と国へ提言して欲しい。病院内の連携システムが硬直している。医療部門間のコミュニケーションを。
- ・たまたまインターネットで情報を得ました。〇〇市に住んでいても、詳細は全く伝わってきません。もっと地域に密着したものにしたいと思います
- ・緩和ケアにおける心の問題への対処法（患者と家族・知人友人とのあいだでの）についての具体的な情報の発信。
- ・ホスピスや緩和医療を受けれる病院の紹介。終末期も大事だが「がん」になった初めの段回で患者が冷静にうけとめて対処できるようにするための運動などもしてほしい。
- ・全国各地で頻回に今回のようなシンポジウムを行って欲しいです。また、学生向けのもあれば嬉しいです
- ・各病院レベルまで緩和ケアの考え方を徹底して欲しい
- ・「緩和ケアはがんの初期から受けることができる」「心の痛みにも対応する」となっていると思いますが、実際には緩和ケア病棟には末期状態でないと入院できなかったり、病院側（特に医者）が、緩和ケアをする意識が低く、がんの治療をすればよいと考えている人が多いと思う。また、看護師の人数が足りず、話を聞いたり、世話をしたくてもできないように感じます。医療者への援助・教育が必要と思います

2月7日 沖縄コンベンションセンター

- ・医療者はみな余裕がない。現場は多忙で労働環境も恵まれていないのではないかと。労働に見合った報酬は必要。国の予算をもっと医療現場へ、そそいで欲しい。医療者の育成に投資して欲しい。より良い緩和ケアを提供するために、より良い医療制度にしてくれないと。
- ・〇〇県（地方）の新聞にも紹介していただきたい
- ・多くの方が緩和ケアの存在をわかってもらい一人の人間として尊厳される医療を目指してほしい。
- ・〇〇での緩和ケアのでき病院を増やして欲しい。上手に痛みのコントロールのできる、医師や、施設を増やして欲しい。家族の負担（介護・経済・精神面 e t c）を和らげられる制度を増やして欲しい。メンタルケアをもっと、もっと頑張ってもらいたい。
- ・今回の様な市民フォーラムをもっともっと講座を開いてほしい
- ・医師によっては、鎮痛剤の使用方法を理解していない人もいます。基本的に医師が疼痛の勉強会を全て受けることが大切だと思う→在宅で過ごせるためにも
- ・どこでも、どの病院でも、同じようにレベルの高い緩和ケアを受けることができるようになってほしい。
- ・患者が緩和ケアを受ける抵抗感がやわらげられるような情報提供のあり方を示してほしい
- ・緩和ケアの質問にはやはり人それぞれなのでその人のケースをみないとわからないが基本論念は必要だと思いますのでその人に合ったプロジェクトができればいいと思います。
- ・医療者にもっと考えを普及させて頂きたいと期待しています
- ・緩和ケアをうけることによるデメリットがあるのかないのかも情報提供すべき
- ・もっともっと“緩和ケア”について宣伝を通し情報提供して頂きたい。“医者”“看護師”とくに“医者”に緩和の早期からの介入の重要性を伝えてほしい
- ・病院での講義を積極的にやってほしい！！
- ・マスコミの報道がイメージを終末期にしている印象がある。治療の初期から、何をするか、何をしてくれるかという広報をしてほしい
- ・緩和ケアにあたる人材育成
- ・地域でコツコツと頑張っている。医療従事者、患者さんに焦点をあてて下さい
- ・もっと人々が認識ができるようテレビ等マスメディアを活用して普及して下さい。例へばがんのケアについての映画化して放映するとか
- ・一般の方への啓もう活動（教育支援、講演など）
- ・〇〇さんの講演を聞いて、医者の言葉（1言1句）は患者の精神的苦痛は計り知れないものがある（常識）。私も医者の1言で約3ヶ月で3kgやせた事がある。医の技術も必要だが、性格指導がもっと必要だと思う。医者に対しては…。こう云う講演は体験にもとづいているので本当に素晴らしかった。ご苦労様でした
- ・田舎にも十分なサービスが提供できるように進めてほしい
- ・よく病院でポスターを目にしますが、患者がどう動けば良いのかを分かりやすく示すともっと興味を引いてもらえるのではないのでしょうか。例えば「相談」といっても何を相談してよいのか、具体的な事などを示すなど
- ・Nsのスキルアップのためにもとても役立つかと思うので、今後も参考にさせていただきます。
- ・気軽に参加できる、わかりやすいセミナーを受けたい。映画などにすると（緩和ケアの基礎的な事でも）皆でみられるし、理解しやすいと思う。
- ・国民の間にオレンジバレーン（プロジェクト）が浸透するよう、ずっと続けて欲しい
- ・診料報酬について、考えてほしいですね。在宅へ移行に関して困っている方々がいる中、政府の

方針に憤りを感じています。がん患者・家族によって発展していつているものの、止っている感じがします。それを打開するのに、ぜひ、このプロジェクト頑張ってほしいです！！

- ・同じ医療者でも「緩和ケア」を取り違っていることがあり、けいもう活動をもっと行ってほしいと思います。
- ・癌難民時代と言われている現在なのでもっと、もっと、国民にアピールしてほしい。
- ・自治体の広報紙で常に状態を流して欲しい
- ・地域住民・医師・看護師・メディカルスタッフへの啓発

問9-1 今回のシンポジウムの情報は、最初に何でお知りになりましたか。(〇は1つ)

「7. その他」の記入内容(72件)

10月26日 東京ウイメンズプラザホール

- ・会社(2件)
- ・職場(2件)
- ・CNJ
- ・CNJから
- ・CNJからのML
- ・CNJからのメール
- ・CNJからの案内
- ・日本メディカルライター協会
- ・大学の講義を受け、担当の教員のパンフレットをいただきました
- ・JMCAからの案内
- ・医療タイムス
- ・院内の掲示
- ・院内掲示(製薬企業からの案内)
- ・会社からのメール案内
- ・会社で
- ・事務局からのれんらく
- ・職場の紹介
- ・大学の授業
- ・大学の先生の紹介
- ・大学講師より
- ・メディカルライター協会からのお知らせ

12月21日 神戸ハーバ-ランド・スペースシアター

- ・通りがかって(2件)
- ・院内のチラシ
- ・病院のポスター
- ・ポスター

1月25日 東京国際交流館

- ・職場(2件)
- ・いのちの会
- ・がんサポート
- ・ジャパンウェルネスで
- ・メールングリスト
- ・看ゴ師
- ・病院内の科学療法室の受付で。
- ・シンポジウム会場での資料配布において
- ・シンポジウム。平成19.10.19疼痛ゼロ
- ・勤務先
- ・職場で
- ・前回の会場のパンフで
- ・東大のポスター
- ・当会のセミナーにて
- ・病院で
- ・病院での広告
- ・病院のポスター
- ・病院の勉強会
- ・病院内のポスター
- ・病院内緩和チームで
- ・病院看護部よりのお知らせ
- ・院内の緩和ケアチームからの知らせ
- ・職場の緩和ケア科からの情報にて

2月7日 沖縄コンベンションセンター

- ・学会誌(4件)
- ・学会(3件)
- ・学会参加(2件)
- ・がん看護学会に参加して
- ・沖縄看協会より
- ・学会のプログラムで
- ・学会の市民公開講座
- ・学会プログラム
- ・学会への参加(がん看ゴ)
- ・学会講演等
- ・学会参加したため
- ・学会資料
- ・職場
- ・職場のポスター

問9-2 補問1 (問9-2で1「大変役に立った」、2「まあまあ役に立った」をお選びの方に)

シンポジウムの内容で役立つ知識だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

※ シンポジウムの内容によっては提供していない項目もあります

「9. その他」の記入内容(51件)

10月26日 東京ウイメンズプラザホール

- ・がんの痛みを軽減させる方法
- ・一般には、まだ認識が低いということ
- ・緩和ケアの現状
- ・患者さんの立場からの痛みへの考え方
- ・患者さんの気持ちが少しながらも理解できた
- ・患者(家族)の立場でできることについて
- ・パネルディスカッション
- ・緩和ケアにおいて心も対象となりつつあるとわかったこと
- ・〇〇先生の話、飾らない内容がよかったが実用性は低い。
- ・普及の妨げとなっているものは何か、患者さんの現状や気持ちについて少し理解できたと思います。
- ・取り組みの姿勢
- ・緩和ケアの取り組みの現状
- ・がまんをしないと言う事!
- ・死について受け止め方を考えさせられました。
- ・患者さんの想いを知ることができた
- ・患者さんの気持ち

12月21日 神戸ハーバランドスペースシアター

- ・専門職として、緩和ケアを推進していく方法を知ることができた
- ・今かかえる問題
- ・緩和ケアの普及の程度
- ・緩和ケア普及の活動方法
- ・費用の面

1月25日 東京国際交流館

- ・ちりょうとかんわケアーの平行
- ・それぞれの先生の使命感が伝わってきた
- ・緩和ケアのエッセンス
- ・費用負担の現状や福祉制度
- ・患者さんの実例
- ・市民に対する講義内容について。

2月8日 沖縄コンベンションセンター

- ・当事者の声
- ・癌体験者の情報
- ・他病院での現況
- ・がん医療について
- ・Ptのとらえ方
- ・がんを体験した患者さんの講演
- ・がん患者自身の経験すごかった。
- ・患者さんからの視点での思い
- ・患者さんの気持ち、本音を聞いたこと
- ・市民や国民にどう私達が行っていることを伝えるか可視化の大切さ
- ・〇〇さんの闘病生活について話されたは会合のすべて
- ・患者側の目線で見える・感じることの実話。尊げん死→人間らしく死ぬということの難しさの実現を知った。
- ・法体制について
- ・患者の気持ち
- ・患者の生の声
- ・患者の体験
- ・Ptの本音
- ・患者の思いが伝わってきた
- ・患者さんの心を知ることができた
- ・国のがん対策、患者の意見等
- ・Ptがどのようなことで苦しむのかを知れた

問9-3 今回のシンポジウムに参加されてのご感想をお聞かせ下さい。

記入内容（294件）

10月26日 東京ウイメンズプラザホール

- ・家族のガン治療に際し、少なからずも緩和ケアにたずさわった。もっと早くから知識があれば、もう少し笑ってすごせたかもしれない。今後、まだ兄弟にがん末期者がおりケアする側の緩和に対する接し方を勉強していきたい
- ・考えさせられる、大変良い機会でした。
- ・表面的なものだけでなく深くまたあたたかく真しにとりくまれていると感じます。これからも御活躍下さい
- ・手術後のいたみ緩和の入口がわかったような気がします
- ・昨夜友人から今から〇〇病院に転院するムネ伝えられた時、緩和ケアを充分していただける病院の方がいいのでは？と言えなかった私は今日のご講演を聞いて少し安心しました。「緩和ケア」を知っているようで実はよく知らなかった事がよく分かりました。
- ・この時間内でめいっばいの情報が提供されたと思います。ただ、時々、寒くなり、免疫機能のおちている患者さんが風邪をひかないか心配しました。
- ・病院での「チーム治療」が行なわれている所では「最後まで治療」路線で進められていると思います。この場合は「治療の為に悪化し、その病院でなくなる」ケースが多い。本人が気はくか、「チーム治療からの緩和ケア」路線が望ましいと思う。
- ・がんで依がん退職を強いられるとは…！！ホスピスに入ることはインドウを渡されることと同じでは…悲しいことだ、と思う
- ・緩和ケアの重要性について、よく理解できました
- ・内服によるコントロールだけではなく、精神的なケアも合わせて治療を行っていく大切さが良くわかった。薬を上手よく使用していくことが大事なことがわかった。
- ・オレンジバルーンの活動が良くわかりました。患者さん本人のお話、関わっている先生方、薬剤師の方、看護師さん、チームになって活動されている方々のお話を伺えて、とても勉強になりました。
- ・一般市民に緩和ケアについて現状・問題点等に広く理解を深めるために必要なシンポジウムであると感じた
- ・がんを体験されている方の生の声を伺うことができ、たいへん考えさせられました。
- ・もっと多くの人々（含患者）がこのようなシンポジウムに参加できると人生が楽になるのではないかと思います。
- ・私はナースですが緩和ケアにかかわっていない、かかわったことがないので、詳しく知らなかったもので、とても興味をもちました
- ・緩和ケアという言葉は聞く機会が増えましたが、具体的に何を指しているのかよくわからない部分があるので、今回のようなシンポジウムは必要だと思いました。緩和ケア＝痛みの緩和ということなのでしょうか？
- ・〇〇先生に質問させていただく時間がなく残念でした。
- ・この場所へ来るのも遠いので考えました。私の住んでいる街ではこの持ち物がありません。いろんな場所で開催される事を願います。参加して良かったと思っています

- ・もともと、一般市民に理解され普及していけば、と思いました。緩和ケアを提供する側（Dr、Ns、薬剤師…）の育成も進んでいけば、と思います
- ・治療実績だけでなく、緩和ケアへのとりくみ方も、病院を選ぶ際の大きなポイントになると思った。
- ・もっと緩和ケア医（専門医）が増えてほしい。診療科として地位を得られれば、なる人はもっとふえると思う。Ns. も緩和ケアをやりたい人は多いのに確立した科にならないからではないだろうか
- ・患者の視点からとらえた緩和ケアの現状はとても参考になりました。緩和ケア普及のために患者の声は大切だと思います。パネルディスカッションで各分野のパネリストから具体的な緩和ケアの話聞くことができ参考になりました。
- ・療養型の病院に勤めていますが、高令者でCaの末期の方の相談が増えていると感じている時に、チラシを拝見し今回参加してみました。確かに、積極的な治療が終了もしくは困難もしくは希望しない、という方が緩和ケア目的に療養型へ移ってくるケースがほとんどです。療養型では積極的な治療をする機能がないのでやむを得ないことだとは思いますが、高令者に限らず大局的に“緩和ケア”をとらえた場合、治療の段階から緩和ケアを行っていくべきという点が、目からうろこのような気づきを頂きました。
- ・参加対象者を限定してより実践的な内容にして欲しい。タイトルと内容があまりマッチしていないと思いました
- ・各講師の皆さんがそれぞれのジャンルでとてもプロフェッショナルであると感じました。そのため、講師の話の内容が濃く、興味深く聴けました。
- ・とても地道な活動と思いますが、大切だと思います。緩和ケアをテーマにいくつかセミナーや学会やシンポなどありますが、ここは、とても患者さんの側に立った現実的な活動をされていると感じました。
- ・患者会の皆様に「緩和ケア」について正しい知識・情報を提供出来ます
- ・患者の家族として訪問NSとして本日の内容もう一度ゆっくりマンツーマンでお話をさせていただきたい気持ちでした。なぜなら先日緩和ケア病棟で他界した実母との日々、を振り返り自分自身も家族として受け入れる貴重な時間になりました。母らしい人生を終えられました。家族も絆が深まり、強く生きていこうと心にきめました。そこに致るまでには緩和ケア病棟、それにつなげてくださった方々の力がどれだけ支えてもらえたか痛感しています
- ・治療からの一環として緩和ケアが加わってくるといいなと思った
- ・緩和ケア＝がん末期というイメージを医療側が作っている部分もあるように思います。今日うたわれていた初期からの緩和ケア、それに追いつける施設等の充実を願っております
- ・緩和ケアを終末医療と同じに受け取っているケースがまだまだ多いが、そのイメージをなくしてほしい
- ・医療従事者として反省すべき点が多くあると考えさせられます。すぐ明日から変えるのは難しいかもしれないけど、今、自分のいる所で何ができるか、何をしたいのか、考えたいと思います
- ・医療者の立場、患者の立場としての意見が聞けて良かったです。緩和ケアが特別なものとして考えられるようではなく、あたりまえのように全ての人が選ぶことができ、受けられる事が出来るような世の中になって欲しいと強く思いました。
- ・もう少し具体的に紹介してほしい。現場での活動報告など、意欲的な取り組みをしている医療機関や医師の紹介がほしい。総論だけでなく、各論もききたい。
- ・具体論に欠く。患者はどのように痛みを医師に相談すればよいのか？理解のない医師が担当の場

合どうすればよいのか、どのような緩和ケアの方法があるのか？その辺が知りたかった。

- ・医療用麻薬は使用者（医者）の腕によって副作用の出方が違うと聞くが、その点も正直なところ聞きたい。医療用麻薬を使えば皆疼痛からまぬがれるのか？ディスカッションの中で聞きました
- ・緩和ケアはまだまだ発展途上にあると思いました。もっと広くがん患者に広まればいいです。体の痛みについてはよくわかりましたが、心の痛みについてももう少しふれてほしかったです
- ・先づ緩和ケアについてももう少しシステムティック、概論的に説明して頂きたかった。それぞれのプレゼンをもう少し関連づけて欲しかった。（例. 序論、本論、（事例等）、結論。）
- ・がん治療の初期から緩和ケアが出来ることを強く認識した
- ・緩和ケアについてももっと深く知りたかった。薬剤についても、医療関係の仕事のため土曜日が休みではないので、土曜講座が多く、中々出席できなかつた。日曜日開催大賛成です
- ・今後もこのようなシンポジウムを続けてお願いします
- ・QOLの維持、向上のために必要なこと。「緩和ケア」についていろんな立場の方の声をきけて良かった
- ・以前からなかなか変えられない医療者の意識。もし自分ががんになった時にどんな医療者に会えることができるのか、治療の場所を積極的に考えていきたいと思いました。又、今後いくつかの点で期待できるお話も伺えたので参考になりました。
- ・大変良かったです
- ・この種のシンポジウムには最初の参加なので、その意味では役立った
- ・自分の考え方、患者さんとの接し方に反省点があると考えるきっかけになりました。
- ・会場が寒く残念でした。
- ・〇〇先生のお話がとても分かりやすく楽しくきくことができ、よかったです
- ・さまざまな立場からのお話を聴くことができ、今、の緩和ケアの現状や求められていることがわかった。今回、シンポジウムに参加しないと聴くことができないので、とても貴重な時間となることができた
- ・まだまだWHOのスケールを知らない医療スタッフがいることが不思議です。
- ・緩和ケアという言葉やその内容はだまかに理解していましたが、今回のシンポジウムによって、より深く緩和ケアについて理解できましたし、より興味を持てるようになりました

12月21日 神戸ハバ-ランド・スペースシアター

- ・緩和ケアについて、終末ケアという感じに取られていましたが終末ケアだけではなく、というのがわかりよかったです。
- ・ホスピスや在宅ホスピスについて、もっと知らせていかないと思う。
- ・現場の医師の方々が、緩和ケアに対して、ここまで真剣に取り組んでおられたのを知って、安心しました
- ・緩和ケアについてわかりやすく説明して頂き、とても参考になりました。
- ・くわしいお話がきけて為になりました
- ・無料でこれだけの知識が与られるのはありがたい。
- ・Al escuchar todo esto me da recuerdos de cuando estudiasa y de las cosas importantes como el dolor del corazon que siente cada paciente.
- ・緩和ケア病棟の先生が患者さんと30分もお話されることにおどろきました。その先生と診察を受けるのはむしろかしいのかなあーと思いました（これは感想と違いますね）。緩和ケアというのは治療中の人は受けられないと思っていました
- ・アナウンサーたちが喋りすぎ。

- ・大変良かった。今後もこうした社会的イベントを催してほしいと思います。
- ・いままで全くしらなかったことですのでいろいろな人に知らせてほしいです
- ・自分又は家族がガンになった時の不安や絶望感をいやす手段があるということを知っただけでも安心できました。
- ・とう痛緩和の治療は、患者さんや世間的な抵抗感や誤解がもとで広く浸透していない事は以前から聞いた事がありましたが、その誤解を解いて知ってもらうというキャンペーンは意義のある事だと思います。今回は日頃聴いているラジオ番組での呼びかけに興味を持ったのですが、まず興味なかった人に興味を持ってもらう工夫が大事かと思います
- ・良かったです
- ・「緩和ケア」というものに触れられて良かったです。
- ・そんな運動があるのか！！とびっくりした
- ・まだまだ知られていない活動ですが、今後、全ての医療で必要不可欠なことなのだと確信しました。
- ・緩和ケア＝治療しても無駄であるという誤解を自分もしていました。それが解けて良かったです。家族にもがんになったものがいるので身近なことです。
- ・少しだけ、緩和ケアについて知りえたと思う。でも、これってボランティア活動でやってほしいです。経済的に苦しい家では、とても医者に見てもらうなんてできないですね。
- ・とてもよかったです
- ・地元の総合病院でプロジェクトを知り、なんかの役に立ってみたいと思った
- ・現場で働くお医者さんの話を聞き、がんに対する不安が和らぎました。
- ・左の頁までの回答はシンポジウムに参加する前の、緩和ケア、という言葉から膨んだイメージのままに書いたものです。身近にケアを受けた者はなく、あまり知識もありませんでした。今回、参加してみて、大変大きく、一力で細やかなものであることを知りました。身体と精神は切り離せないということを改めて知った思いです。
- ・まあまあ
- ・ある程度はためになった
- ・この様なシンポジウムに参加出来て良かったです
- ・緩和ケアの説明で、「あなたと一緒にいますよ」という約束しかできないという話が印象的でした（Dr. ○○）
- ・がんの痛みには病態により痛みだけでなく、心のいたみなど様々なものがある、ということを現場でご活躍されている先生のお話から感じました。あらゆる痛みを取る、少しでも力になりたいと思いました。もっと緩和ケアについての知識をふかめたいです。
- ・知っていれば、もし身近に必要な事がおきたらきっと、役に立つと思います。大変参考になりました。
- ・参加して、良かったと思います。母を乳ガン転移で亡くしたのでラジメニアのイベントと共に軽い気持ちで聞きにきましたが…。脳に移転した時が、見ている私と父も、一番辛かったので…。今回聞かせて頂いた事が、今後、何かの役に立ちますように。覚えておきたいと思います。ありがとうございました。
- ・親類等が高齢化する中、啓蒙に価する結構なお話をうかがえました。今回のお話、知人等に話させていただきます
- ・大変勉強になりました。
- ・良かったです。またシンポジウムやってほしい

- ・今回の事でまだまだ知らない事が分かったので、今後共、色々勉強していきたいです
- ・今日のシポジウム（がんの緩和ケア）に参加させていただき大変勉強になりました
- ・パネラーの先生の説明はわかりやすかったが、結局は医師一人々のパーソナリティにケアのクオリティが左右されると思う。自分は今までの経験から医者というものには悪い印象しか持っていないので、自分がケアを受ける立場になったとしても現状ではあまり期待できないと思う。
- ・近親者または自身がそういう立場になった時の方法論が見えて有意義でした
- ・とりあえずの大枠はわかった感じがします。がんの治療と別のものでなく、その一環として「わざわざ別に受ける」という風にはしてほしくないです
- ・がんに限らず、普段の生活や生き方についてもいろいろと考えるきっかけとなりました
- ・よかったがどこで相談するのか？
- ・実際の現場で仕事をしているDrの意見を聞くことが出来て、現状や問題点について知ることが出来た。
- ・見識が広がった
- ・もっとおもしろおかしくというか、単調な話が続いて眠たくなる。メリハリがあるというか、眠くならないよう工夫してほしい。
- ・知る事が出来た、その事が一番大事だと思いました。恐らく今回の内容だけでは十分な理解に至ってはいないのですが。それでもいざその立場になった時に「緩和ケア」という選択が出来る様になった、それだけで非常に意味のあるシンポジウムだったと思います
- ・入院しなくてよい。高額医療費でお世話になれそう。あとはどの病院が緩和ケアをやってくれるのかと病院選びが大変みたい。どうしよう…
- ・緩和ケアの現状を知った
- ・専門の先生方の考えを直接きくことができよかった。緩和ケアと精神科に近いものを感じたが精神科の医師やN. Sは関わっていないのか疑問をもった
- ・医療従事者の医師、看護師の方からお話を聞くことができ、緩和ケアについての知識だけではなく、あたたかい人柄も垣間見ることができたように思います。〇〇先生の『私たちは「良くする」ということは言えない。「そばにいますよ」ということしか約束できない』というお言葉が印象に残りました。ありがとうございました。親子連れの方々が座る席がなく、2階でみられていたことがちょっと気になりました。
- ・なやみ（痛み）を共ゆうし、共にのりこえていく事の必要さを教えていただけてよかったです。
- ・私は肺癌（ステージ4）診断9日にされましたが今日の話聞き前向き生きていきます。
- ・具体的な話が、聞いてよかったです
- ・参考になりました。ありがとう
- ・緩和ケアというものをまったくしらなかったなのでその事を少しでも知れたのは有意義だったとおもう。ラジオのイベントで来たが興味深い話を聞くことができた
- ・私は、今回初めて「緩和ケア」というものが有る事を知りました。もっと多くの人々に私のように知ってもらえる様にして欲しいです
- ・良い試みだと思う
- ・役立ったと思います。今後回りにガンになって、緩和ケアのことがやくにたてると思います
- ・今ホームヘルパーの資格取得のため研修を受けているのですが、同意する点が多かったです。今日知った事を今後の研修にも生かそうと思います。
- ・いろいろと気づかされ参考になりました
- ・叔母はガンで亡くなったのですが、周囲の知人以外には秘密にしていました。現在の健康状態に

かわからず、家族や知人と緩和ケアについて話す機会をもちたいと思います。

- ・いままでに知らなかった分野ではありましたが、大変に勉強になりました
- ・もしかしたら今後起こりうることに對して、不安が少なくなった。あとは、がん告知とのかねあいについてが課題の1つかと思う
- ・緩和ケア＝終末期医療ではないと言うことは、わかりました
- ・食道・胃・大腸と前立腺ガンを経験したが、すべて痛みを知らずに済んだ。この12月1日に「すい臓ガンの末期」の宣告をうけたばかりで、かかりつけ医師も初めての様で、とても重要だったので今は参加した
- ・大変有用でした。ありがとうございました。
- ・本人とその家族も緩和ケアをしてもらえる事は、嬉しいです
- ・とてもがんのケアによる知識を得た事と思います。
- ・“病気に關心を向けるのは緩和ケアと” 言えないという言葉が心の残りあらためて頑張りたいと思いました
- ・とても良かったと思う
- ・緩和ケアという言葉が今回初めて聞きました。痛みを和らげながら治療するという考え方はすばらしいですね
- ・これまで緩和ケアというのは全然知らなかったが、このシンポジウムに参加して知識が深まりよかったです。

1月25日 東京国際交流館

- ・全人的疼痛の中のスピリチュアルペインに関する対応の仕方（コミュニケーション、薬剤）に関する内容の話が特に勉強となりました
- ・痛みを緩和する方法その機序なども具体的に示していただき、大変勉強になりました。勉強会に出たりこうしてシンポジウムに参加したりなど機会が増えることでより理解が深まると感じます。（ただ、会場が寒かったです…。これ以上寒いと風邪ひきそう…。と思うくらいに寒さを感じました。）
- ・基本的なことは理解できたと思いますが、いざ、実際に…となると、未だ、不明な点が多い…。やはり治療も含め、個々オリジナルな対応が必要と痛感。
- ・どこからどこまでが、「緩和ケア」か？はい、やります、お願いします、とやってやるのも変なのだろうか…。
- ・死から生を考える事の重要性
- ・プロジェクトも使っていて、わかりやすかったです。
- ・高度な内容についても分かり易く発表していただきありがとうございました。
- ・緩和ケアというものの基本的なことが理解できました
- ・大変わかりやすかった
- ・こういう市民向けのシンポジウムを広く行っている努力にけい意をおぼえます。
- ・乳がんと診断された患者には、診断される時点で、「緩和ケア」に参加するようなシステムを作る
- ・再び、緩和チームに戻りたいと感じました。（受け入れて頂ければ…ですが）
- ・看護師です。大変わかりやすく学ばせていただきました。日頃考えていることがすっとふに落ち確信を持って患者・ご家族に對応できそうです。当院でも緩和ケアに對する認識はまだまだ低いですが人々の幸せのために頑張ります
- ・痛みの分析で説明され自分の悩みの位置づけがよく分った。

- ・〇〇先生の話し方が穏やかで眠くなるような感じがして緩和ケア病棟の先生なんだなと思いました。安心できる感じがしました。
- ・予防や早期がん治療に対しても緩和ケアは非常に有効であるということを今回改めて認識しましたが、同時にシームレス・パラレルケアをするにふさわしい地域医療連携整備がこれからますます重要になると思いました。また、スピリチュアルについても多くお話いただきとても貴重なシンポジウムでした。
- ・現場の緩和ケア医の方や専門の看護師の方のお話を聞くことで緩和ケアが身近なものであると思うようになりました。全国のどこの施設でも質の高い緩和ケアをあらゆる患者が受けられるように頑張りたいと思います。私も看護師なので自分に関わる患者家族が安らかであるよう心身の支援ができるように頑張っていきます。ありがとうございました。
- ・〇〇先生のご講演は、実際にケアを受けられた方が多く出ていらっしゃる、緩和ケアがより身近かなものとして感じることができました。
- ・緩和ケアがどういうものか、ということだけでなく、患者さんがどういうことを考えるのかということがわかって、よかったです
- ・各先生方のお話で重複する部分が多くて残念でした。1つのお話をより深く掘り下げて、また伺うことが出来たら幸いです。
- ・現時点で自分自身、家族に癌患者がいるわけではありませんが、高齢者もおり、先に向けての心構えができたと思います。
- ・〇〇Dr、〇〇Drのプレゼンが面白かっただけに…。もっと〇〇NsのプレゼンでNsとしてのこだわりや大切にしていることなど葛藤などを知りたかった。ミニパネルで一般市民の声がきけてとても勉強になった。貴重な体験談は宝物だと思いました。
- ・医療麻薬の教育のプログラムがスタートしたばかり。コミュニケーションまでまだまだですね。会場から出ている意見にパネラーのコメントがほしかったです。司会者のまとめ過ぎ
- ・病院で働いていると癌による死以外の場面も多く体験しますが、そのようなシンポジウムに参加することでどのように生きて、亡くなっていくか、考えるよい機会となりました。病気で死をむかえる時は緩和ケア！と思った。
- ・〇〇先生のお話が非常にわかりやすかった。がん治療を行う際に医師からこのような説明があるといいと思う。〇〇先生のまとめ方も非常によかった
- ・母（79才）に対して出来るだけ痛みのない生活という事を目標としていたので、とても役立ちました。本日は有難うございました。
- ・当院でのDrは薬、テープの使い方が今いち、このようなシンポジウムに参加してほしいと思います。今日は、大変ためになりました。
- ・いつでも、どこでも今日、話しがあったような緩和ケアが受けることができるように、一日でも早い実現を待っています。現実を目を向けたとき、厳しい状況を感じます。
- ・最初の〇〇先生の話しに引き込まれ、感動しました。今回、先生の話しが聞く事ができ良かったと思いました。
- ・仕事上終末期の患者様やガン性疼痛と闘っている患者様と多く関わっています。緩和ケアも多々導入されてはいますが、自分自身薬だけにたよりすぎているのではないかと感じました。もっと精神面、スピリチュアル面に向き合いながら、薬のみならず気持ちの面からも痛み・苦しみを和らいでいけるよう患者様と関わっていけるようにしたい、と思いました。少しでも患者様と多くの時間を過ごし会話する機会を作っていきたいと思います。
- ・大切なことを大切にすることが「緩和ケア」なんだということを再認識できました。緩和ケアに

たずさわるもの自身でいやされたり、支えられたりすることが多いとふだん感じています。講演して下さった先生方もそうなのだろうとなあと感じながら聴きました

- ・今回のシンポジウムで市民の多くの人達にも「緩和ケア」のイメージが分かったと思います。それぞれの先生、又は看護師が分かりやすい講義をされていたと思います。
- ・恥ずかしながら、今日このシンポジウムに参加するまで、「緩和ケア」という単語を知らませんでした。今日の生活、その中でも、〇〇先生のお話は、実際の患者さんとその家族、そして医療従事者との関係・やり取りが紹介されていて、非常にリアルで考え深いものがあった。今日のシンポジウムのために、大変お忙しい中、献身的に準備して下さった先生はじめ、チームのみなさまに感謝いたします
- ・近年の癌P tの増加や、若年層P tの増加につれ、医療も変化してきていると思った。P tでなく人としての生き方を大事にするのが1番よいことなのだと改めて感じました。
- ・夫が今癌で入院中です。OPも抗ガン剤もしないで克服というより共生・共存を目標にしています。これからの生き方に大きな安心と方向性を示していただき、とても有意義でした。
- ・アメリカ映画などで末期医療・緩和ケアの確立されている様子を知り、日本でもそうやって来たら良いと願っていました。想像以上に緩和ケアが進んでいることを知り、安心した。ただ、どこでも誰でも受けられるのでしょうか？まだ少し疑問です
- ・緩和ケアが大切である事は良くわかりました。しかし、まだまだ緩和ケアに対する正しい知識を私達も含め、医療者さえも持っていないのが現実ではないかと思われまます。緩和ケアをもっとアピールしてほしいと思います
- ・緩和ケアについて知識を深められたことが良かったです
- ・より深く、緩和ケアの役割が理解できたと思う
- ・緩和ケアについては地域格差があり、医療従事者が勉強不足。自分も、もっと勉強し、DrやNsと、P tと話しをしたい
- ・オレンジブループロジェクトのアナウンスがうるさく感じられた。あまりにも繰り返すすぎる(スクリーンに写すだけでよい)。休憩時間中ずっと流されてて不快。ほとんどはすでに知っていたことだったが、定義の変遷がわかり興味深かった
- ・全人的ということの大切さを実感しました。
- ・〇〇先生の講演が一番印象に残りました。パネルディスカッションについて、司会者ばかりしゃべっていてディスカッションになっていないと感じた
- ・がんに関連したお話を一般市民対象にも専門的にする必要がある事を感じた。具体例がありわかりやすかった
- ・前述のように大変有意義な時間を過ごせました。但し、私はがん患者なので、色々自分なりに知識を得ており、目新しいテーマがあまり多くなかったのが、少々残念でした。
- ・看護をする家族の立場から、患者にどういう対応をするか、心のケアをすれば良いのかということがわかりました。気持ちに余裕がなくなったときに、今日聞いた話しを思い出して落ち着こうと思います。実際、会場の人のお話しも聞いて勉強になりました。
- ・疼痛治療を知って良かった。
- ・専門家の方々のお話は分かりやすくとてもききやすかったです。緩和ケアの正しい知識を知ることとはとても大事だと思います。たとえ自分や家族に直接かかわらなくても周りの人達にも伝えることができます。まだまだ多くの方が緩和ケアに対し誤ったイメージをもっているのです。このようなシンポジウムをぜひ多く開催して頂きたいです
- ・緩和ケアを不採算を理由に廃止した病院があります。安定した医療サービスの供給の必要性とい

う観点からも取り上げていただきたいと思います。

- ・昨年、父がガンと診断され、家族として何が出来るのか、何をしなければいけないのか、なやんでいた所、このシンポジウムを知りました。これから父がどの様になっていくか分かりませんが、今回のシンポジウムに参加し、なにかひとすじの光がさした気がします
- ・非常に有益であったと思います
- ・たいへん親切な役立つ内容の催しで有意義でした。特に〇〇先生のスピーチの素晴らしさに敬意を表したく思いました
- ・再度理解を深めるため聴講したい
- ・初期より精神、痛みのにもかかわりが必要。オピオイドを上手に使用していくことの必要性がわかりました
- ・〇〇先生の話で、痛みをガマンすると、よけいに痛くなるということを知ることができてよかった
- ・家族の生と死に正面から向き合うことの大切さを認識しました。
- ・2年前の緩和ケアと今の状態がかなり進んでいる事を感じました。でももっと国をあげて進めて行ってほしい医療だと思えます。
- ・痛みを和らげる方法は大変わかりやすかった
- ・いくら要点（内容）をメモしようとしても、聞きながらでは難しい。ポイント（レジメ）がほしい。
- ・全てのガンに関する医師が講義をして下さった先生のようにあって欲しい
- ・とてもよかった
- ・急性期病棟に働いていますがなかなかスピリチュアルなケアを進めていけなくて悩んでいますが、1日ひとつでも自分が満足出来るケアを実践していこうと思えました
- ・緩和ケアが終末期医療でないことを知った。（ホスピスとは異なる）
- ・スピリチュアルなケアについて理解が深まった。ただ、患者へのスピリチュアル・ケアに話が集中していたように思われ、家族や患者をとりまく非家族の人達に対応すべき、取り組むべきケアについても事例報告があれば一層分かり易くなると思った。
- ・いろいろな情報があるなか、誰もがそれをえられるがその中で医療者からの情報というのにDr、薬剤師しか提供してないのかなと思った
- ・大変、勉強になりました。患者様への対応など、すぐに実行できるものから早めに実施していきたいと思えます。
- ・〇〇先生の講話がとても良かったです。〇〇先生の「強い痛み強い薬（→いい表現をすることができました。今までうまく説明し、伝えることができなかったから。NSとしては、もちろんわかっていたけど、知識のないPt・faへの説明に使わせていただきます。）」という表現は非常にわかりやすかったです。ありがとうございました。
- ・以前のシンポジウムで忘れていたことを思い出し有意義だった。〇〇Drの話は2回目、〇〇Drの話はすばらしかった。〇〇さん、さらに期待しています
- ・心や体の痛みを緩和できるNSとして存在したいという思いが大きくなりました。「自分はわからないでやっている」という思いが強かったのですが勉強しながら患者さんの力になりたいと思えます。
- ・緩和については興味がありというか、病棟、病院でも、緩和ケアチームが活躍してます。いろいろな動向についても理解できました。先生方のお話はとてもすばらしく心をうたれました。希望を持てるようにスピリチュアルな部分でももっと支えていけるようにしたいと思います。

- ・緩和ケアチームで活動している薬剤師です。チーム活動が行き詰まり〇〇先生に元気をもらいにきました。基本にもどり、様々なことに気づかされました
- ・実際の症例をふまえての話を聞くことができ大変参考になりました。
- ・症例を聞いたお話が多く聞きやすくてとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・とても良いシンポジウムだったと思います。出席させていただいて本当に良かったです。具体的なお話が聞いて特に良かったです。本日は大変ありがとうございました
- ・自分の日々の暮らし、生き方を見直すきっかけとなった。とかく身体疼痛を緩和ケアと思いからであったが、生きる力を取り戻すための全人的ケアであることが納得できた。素直に橋渡ししてくれる医師・看護師が医療連繋の重要な役割と思う。市民は理解するだけでなく、緩和ケアを納得すれば自ら行動するものです
- ・疼痛を和らげることの大切さ、また、疼痛を和らげる方法を知ることができ、勉強になりました。現在、製薬メーカーで鎮痛薬の開発を担当することになり、本シンポジウムに参加しましたが、その責任の重さを痛感しました。
- ・スピリチュアルケアの話はちょっといや
- ・〇〇先生のお話に感動し心から賛同致します。(ご3人の方のパネリスト)素晴らしいスピーチ感謝です
- ・〇〇先生の話はとても心にしみわたってきました。〇〇さんの話は、Nsがどう関わってくれるのか、どのような制度があるかを分かりやすく話して下さい、訪問看護を行っている私は、とてもうれしかったです。〇〇先生のコミュニケーションの基本は感情！！本当に強くうなづきました
- ・がんで入院治療中の夫に、少し希望が持てるようになりました。患者に対する接し方を変えなければと大変勉強になりました。
- ・大変良かったです。ありがとうございました。
- ・ターミナル期のQOLを上げる事に緩和Careがこんなに役立つとは知らずに来た。今日は来られて大変良かったです。
- ・心のケアに関心があるため講演はものたりなかった。ケースの紹介の時ももっと患者自身の発言を取り入れて紹介してほしい。客観的な紹介だと心に響かない。パネルディスカッションは司会の〇〇さんの意識が現実即して取りまとめの進行に納得できた。もっとパネルディスカッションが長くてよかった。各先生とも講演時よりよかった。会場で配布されていたマンガに出てくるがん患者がすごく弱々しい老人に描かれていて不快に感じた。
- ・終末期の往診での担当医や看護師のすべての人がスピリチュアルケアのスペシャリストであって欲しいという思が残った。積極的治療を希望する初期で緩和ケアを受ける自身の心の持ち方のむずかしさを感じる
- ・父(81才)のケアについて知りたく、このシンポジウムに参加しました。実際には自分自身のケアに大いに役立つと思いました。手術後放射線、化学療法、現在ホルモン治療中です。再発、転移の恐怖があり、生き方について色々考えさせられました。
- ・とてもわかりやすく、心に響くお話で、良かったです！
- ・私は病院の中で緩和ケアチームに入っていますが、一般の看護師の意識や知識もまだまだ不足していると感じます。もちろん、私自身も不足を感じていましたが、「痛み」についての情報を得ることができ大変勉強になりました。医療者と一般の市民の方の意見をきけて良かったです。
- ・「がんの痛みが強い=悪い」のではない。一人一人痛みの感じかたが違うから「痛い」時は「痛い」、そう言ってよいのだと。患者さんは安心すると思ます。私たち医療者にできることは「患

者さんの思いに尽す」ことだと今日の先生方の話から思いました。

- ・言葉は知ってましたが、ある程度知識を得る事ができた
- ・先生方のお話は、貴重なお話ばかりでした。日本のすべての先生（ドクター）が今日お話して下さった先生（ドクター）の方ばかりだと幸せな事（国）だなと思います。今の日本は悲しいけど、今日のドクターより、利便な事や自分勝手なドクターばかりだと思います
- ・〇〇先生のお話がとてもよかった。〇〇さんも。ドクターやナースは、あくまでも医療の専門家であって、人の生き方について他人に説くことができる専門家ではないはず。人生については個人個人が自分の人生の専門家なのであって医療者も患者も家族も対等。だから生き方についてドクターやナースに説教されたくない。「希望を支えたい」「本音を話してもらいたい」「患者の心にむきあいたい」なんて大きなお世話だ。全人的ケアも心理支援も結構だが、人生訓を説かないでほしい。〇〇先生の話は、〇〇先生自身が人々からなにを学んだか、という話であってほしかった。「not doing but being」という意味は、医療者はそこにいる“b e”ことしかできずなにもできないのだというけんきょな原点を示している。“ケア”しているというおこがましさをやめてほしい
- ・大変よかったです。これからのCMの仕事に役立てたいと思います。ありがとうございます
- ・初めて参加させていただきました。家族にはがん患者はいませんがとても身近に感じました。もし、身近にそういった人がこれから先、できたとしたら、今日のセミナーを思い出し接したいと思いました。それとは別に、今自分が健康でいられる事に感謝しました。少しでもそういった方の力になれるよう生活して行きたいと思いました。→〇〇県内、来年学所、ケアマネ。
- ・もう少し具体的な話をして欲しかった
- ・場所が遠い気がします。ゆりかもめに駅員がいないので、何かあったら（参加しようとする患者に）困ると思いました。
- ・〇〇先生のお話に感動しました。乳ガン、全摘手術後3年近くになります。再発を怖れています。同時に、夫との間に問題をかかえています。しかし先生のお話をききながら、もっと、自分の今までの人生、これからの人生を考えようと思いました。アメージンググレースをききながら涙が出ました。
- ・友が肝がんで〇〇センターでお世話になった。S p e a k e rの方々のような素晴らしい医療者だけではなく、治療途中で放棄され、がん難民となり〇〇、〇〇、〇〇と転々とし、その間、彼の痛みは激しいものだった。最後は脳転移→昏睡で、破裂して亡った。現場のD r . 次第で緩和ケアの質があまりにも違う。一日も早く、緩和ケア専門医を多く育てていただきたい。
- ・〇〇先生の緩和ケアの姿勢に素晴らしいと感動しました。
- ・実際の患者さんの実例を伺えて、具体的なイメージがわきやすく、ためになりました。
- ・基調講演1—○（感情）、2—△（現場）、3—◎（学問）この組み合わせは良かった。緩和ケアの最後の遺族ケアについての説明がほしかった。死亡する事で全てS T O Pの現状
- ・今後の自分自身の癌治療方法方針を立てるのに有効であった。
- ・全人的苦痛についての知識を得る事ができました。「価値感を大事にし、希望や目標を一諸に探す」
- ・資料（パンフレット類を含め）をもっと提供してほしかった。
- ・誤解と言いながら、ターミナルケアを連想しました
- ・命の大切さ、重みを考えさせられました。
- ・大変役に立ちました。痛みについてが一番の心配でしたが痛みに合わせて薬は使ってもよいという事を聞き少し安心しました

- ・私達の住む地域での緩和ケアの普及は、私達の手で行いたいと思いました。病院でしていることを地域の方々へ伝えていきたいと思えます
- ・医学知識をもたない「市民」に対し、どのレベルの話をしたらよいのか参考になった。
- ・現在、地元の大手病院で良い治療を受けています。満足しています。しかし病状が相当悪化しないと、チーム医療の話も、緩和ケアの話ありません。地元在宅緩和ケアの体制があるのか、まだ不明です。本日は理想的な緩和ケアの話をうかがいましたが、非常に限定されたサービスなのでは…と思えます。
- ・緩和ケアは痛みをとるためのものであることは、情報として知っていましたがこころのケアが共に入ることには知りませんでした。実際今かかっている病院では、どこまで、緩和ケアを受けることができるのかたずねるきっかけになると思えます。
- ・パネルにより症例が示されたが、更に部位ごとに紹介されればよかったのだが…
- ・医師がスピリチュアルケアやコミュニケーションを、私の想像以上に大切にしていた（こだわっていた）ので、ちょっと驚きました。
- ・だれかの役にたちたいと思うようになった。今、お友達が乳がんで治療中なので何か役立つことが出来ればと参加。県外より来て良かったと思えます
- ・緩和ケアのことを詳しく知ることができました。患者さんの人生を感じさせて頂きました。
- ・私自身も医療者の一人として今後、緩和ケアをどう取れ入れていったらよいのか、どう向き合っていけばよいのか改めて考える機会となりました。
- ・大変勉強になり、はげまされました。
- ・わかりやすくよかった。スピリチュアルに関しては難しい。一般病院に勤務しているDrの緩和ケアに対する知識は非常に低いと思う。医学生や研修医の教育は行っていくにしても現医師などはどうしていくのか？
- ・現状を知ることはできたが、今後具体的にどうしたらよいのかということはよくわからなかった。
- ・緩和ケアでの実際の患者さんの話や、痛みについてなどいろいろな話がきけてよかった。
- ・今回、どの講演においても、スピリチュアルケアは重要な項目として、挙げられていたが、日本人の原教観や個々の宗教観がベースとなるこの痛みに対するケアについて、医学だけでなく、宗教学など他の分野からの意見もとり入れて検討していく必要があると思う。他のケアのように学校等で教育され、習得する「専門的ケア」とは違うと思うので、慎重に確立して行って欲しい。
- ・緩和ケア＝終末医療と考えていました。今回、緩和ケアの正しい知識を少しですが知ることが出来、よかったです。特に、〇〇先生の講演は素晴らしかったです。私は現在、大学3回生で、看護の勉強をしています。将来はがん専門看護師になりたいと思えます
- ・今回講演して下さった先生方みたいな医師、看護師であって欲しいと思えます。現在の診察は、患者の目線というより、パソコンのデーターを、のぞきながら患者を見てくれ、長い間待って、2～3分といった感がある。ガンに限らずやはり病人を安心させる診察を望みたい
- ・緩和ケアの定義、痛みを和らげる5つの方法、WHO式疼痛治療法等のメインなものについては印刷した資料として欲しかった（OHPだけでは記帳する時間が足りない。カメラで写す者が多くフラッシュが邪魔だった）
- ・どこに住んでいても身近な病院・在宅で緩和ケアがうけられるようになるといいと思えました

2月7日 沖縄コンベンションセンター

- ・受講（参加）してよかった。感謝
- ・情報の収集に役立ちました
- ・市民講座の内容が濃くはじめてのシンポジウム大変よかった。ご講演、体験で談よかった

- ・患者さんと家族、医療者がともに変わるためにも、今後もこのようなスタイルを取り入れていただきたい。様々なニーズとその制約の中で一人一人最大限の力が発揮できるように願っています
- ・がん患者への「社会的痛み」の是正も大切。
- ・今回の〇〇さんの体験談は、患者側・医療者側との人間としての接し方を、お互いの信頼関係が持てるよう、お互いが頑張らないといけないと感じた。(双方の気持ちがわかり合えたら素晴らしいと思う。そして、良い方向へ向かえたら、更に素晴らしいと思う。)
- ・人間を尊げんする
- ・「国民が声をあげていけば医療の改善を」本当にそう思います。(外来看護師は看護料にならないのでどんどん手薄な状況です。100人のPtに対応しているNsに声をかけられないPtはたくさんいます
- ・参加者が少なかった。もっと広報すればよかったのでは。
- ・〇〇のがん医療、看ゴをもっと盛り上げて発展させ、研究発表を多く出すよう願う
- ・実体験等が聞けて、あらためてPtと接する際言葉づかいや対応に十分気をつけてしていかないといけないと感じた。忙しい中で忘れがちになることが多いため、Ptが少しでも不安を軽減できる様、気持ちを表現できる様環境づくりを行っていききたい
- ・よかった
- ・わかりやすかった
- ・〇〇さんの講演を聞いて医療従事者の1人として、今までの自分を振り返り患者様の対応に対して、もっともっと患者様に寄りそう人間対人間の看護の重要性、必要性を再確認する事が出来ました。ありがとうございました。
- ・一人の人間をそんな重なるあたり前の事を関わり方の大切さを痛感した。
- ・対談のテーブルのレイアウトですが患者VS医師、看ゴ師という雰囲気風船をはさむことで生み出しているなど感じました。もう少しレイアウトは考慮してもよいのかなと思いました。
- ・医療現場の方と、患者や家族のコミュニケーションというか声を出す事の大切さ。患者の立場の考えをしっかりと持つ事の大切さ
- ・痛みを持った患者に対して少しでも役にたてる思いやりをもったNSになりたいと思います。患者さんの感じる事、希望することをどんどん医療者が知ることができる場合は必要と思います
- ・がんPtの生の声が聞いたことがとても貴重でした。特にENT後の生活の話が…今までなかなか見えない部分だったのでこれからもっと目を配って見ていきたいと思いました。
- ・ガン医療を働きかけが人生をかえられる事を知った
- ・がん看者の体験された話を聞くことが出来ありがたい
- ・勉強になりました。ありがとうございます
- ・参考になった
- ・緩和ケアのあり方を患者を取り巻き介護看護する家族へも十分に理解してもらいたい事も大切だと思います。緩和ケア病棟で家族がおろおろしている様子がありました
- ・日頃から疑問に感じていた事も解決でき、患者、医療従事者のそれぞれの立場から意見や考えがきけ、今後の看護に活かしていきたいと考えます
- ・“患者さんの声”心に痛くひびきました。医療の現場を反省しつつ、人としてかわり人として尊厳を持ち、更に専門的な介護(？字が雑で解読困難)が必要であります
- ・時間が短かった
- ・がんに関する法律が制定され、国の責務が明確化されたこと。住民・患者・家族に希望がもてるのではないか。がんは治らない治りにくいという認識が変り、自分の健康を自分で作っていく気持ち

は強くなった

- ・〇〇さんの医療者への意見ありがとうございました。がん医療に係わる看護師として心をみがいで行きたいです
- ・患者さんの声を実際に聞いて患者さんの思いを理解でき良かった。
- ・P tの声はいいですね！
- ・参加してよかったと思います。緩和ケアという言葉は始めて知りましたがガンと云われ14年位なりますが、最近ある病院で間違った診断をされて、(大きなガンが発生していると云われて)長い間心理的にまいりました。ガンと云う言葉は医者には簡単に云うべきではないと思う
- ・患者さんの生の声をストレートに素直に話された事に感銘を受けました。医療者の1人としてフィッシュデスカッションに期待がもてました
- ・P tの本音を聴けるというのは、看ゴの姿勢・態度をもう一度見直すためにはとても重要かと思っています。個人の問題ではなく、N s全体の問題として考え、今後も取り組む必要性を実感します。ありがとうございます
- ・基本法が制定され平等に治療が受けられるようになって来た。〇〇は陸つづきでない分、地域的な差別があると思う。どうしても本土に行かなくてはならない状況もあると思う。
- ・市民がもっと参加することを望みます
- ・患者さんの声が心に響きました。患者さんや御家族に寄り添い、支えるケアをしていきたい
- ・2題目の、〇〇さんのお話しは、現実と同じ場合を体験されている方が多いです。告知はするけど再発転移は、中々本人へ伝えない現状があります。また、看護師も多忙勤務の中、つい感情を現わしてしまうこともあります。本当にその点を改善しなくてはいけないし、職場環境の改善が必要だと思いました。一度の改善は難しいですが1歩1歩進んでいると思います。
- ・短い時間で、国のがん対策や患者さんの立場でのご意見等とても良かったです。当日のプログラム、講師のプロフィール、配布資料があるのもっと良かったです
- ・患者さんの思いを聞くことができたと思いますが…。現場のN s、D rは業務におわれていて、「自分が患者だったらどうしたいか、家族がそうなったらe t c」「どうしてほしいか」を考えて対応することが大切だと思いました。
- ・業界用語で何で(n e tとか)調べたらわかるかなども教えてほしい。
- ・〇〇さんの体験や話は心に残り、また勉強になった。〇〇さんのコメントが上から目線で聞きずらかった(N sに対するコメント、〇〇さんに対するコメント)。
- ・〇〇さんの体験。共感を得る場合が多々ありました
- ・何年か前に〇〇さんの講演を聴いた事があったが今回元気な姿をみて、嬉しく思いました。
- ・緩和ケアについてあらためて考えることができて良かった。自分の日ごろの対応についても考えることができた
- ・大変良い勉強になった
- ・一般講演会だけ参加したので、もの足りなかった
- ・市民公開講座というよりは、医療者むけの講座になっている感じがした。
- ・お金が充分にあり、人手が充分にあり、そうでないのがん患者の期待の為にとかできないのでしょうか。私は医療、看護における態度、モラルの取組が今も重要と考えます

問9-4 今後、シンポジウムで取り上げて欲しいテーマがありましたらご記入下さい。

記入内容（147件）

10月26日 東京ウイメンズプラザホール

- ・問4-1の1～9
- ・精神腫瘍科の先生のお話をききたいです
- ・在宅緩和ケアでは実際にどこまで対応できるのか（最近は見取りまで対応できる在宅医とそうでない所の差が大きい。在宅療養支援診療所だとしても。）
- ・私は高齢者で、ガン友も多くいますが、病院まかせで最後まで治療の方が殆んど。しかし、若い方の場合にはチーム医療～緩和ケアで十分に対応出来る体制にして上げたく思う。地域の緩和ケア体制の現状等を知りたい。
- ・小児についての緩和ケア、院内学級について
- ・重粒子線での治療法、その保険適用への手段。
- ・在宅医療について、病院から在宅へスムーズに移行出来るノウハウについて
- ・NSTについての現状を教えてください。緩和ケアの中で食（事）をどうするのか、QOLのいちばん大切な点です。
- ・もう一步踏みこんで、具体的な緩和ケアの方法・症例を紹介する機会があればいいと思います。薬の使い方等。各々の経験に基いての知識・関心で参加されている方が多いと思いますが、様々な部位のCaや症例を知ること、理解が多角的になると思います。
- ・シンポジウム参加対象者を限定してより専門的な内容を伝えた方が麻薬に対する偏見はなくなるのでは？と思います。
- ・医療費等、経済的な観点についてもとりあげていただきたい。
- ・緩和ケア第2弾をやってほしいです。
- ・なぜ普及しないのか、のバリアを明らかにしてほしい（死生観とか麻薬に対する拒否感とかソフト面じゃなくて。）
- ・「前立腺がん」や「転がん」などについて。「がん」治療中や「その後における好ましい食生活や心のケアなどの問題について
- ・地域にこのような活動セミナーを普及してもっともっと1人1人が理解活用していけるような身近なものなるようなテーマ、で必要な情報が手に入るには など
- ・こころをケアするということに大変興味をもちました。患者様が病を受け入れるまでに経験される様々な心の痛みについてお話いただけると参考になります
- ・心のケアについて、死生観について、緩和ケアの実情（問9-3のような）、治療法、薬の種類、薬の効く仕組みも知りたい。
- ・症状を緩和するのに麻薬以外の方法
- ・日本の現状と海外の事例の比較
- ・緩和ケアの具体的内容（麻薬の種類やその他の方法）について教えてください、それに関するセミナー
- ・在宅での緩和ケアについて
- ・「乳ガン」に関しては多くの情報があるように思われますが、『卵管ガン』についても是非取り上げていただきたいと思います。
- ・緩和ケアに従事する医療者の意識を変える為にどんなことが必要なのか

- ・内容をより深めて取り上げてほしい
- ・在宅での具体的ケアを教えて欲しいです。
- ・代替医療の関わり方について具体的なやり方をご提示頂ければと思います
- ・胃がんについて
- ・医療者、患者の立場から、これからの医療について、行政に対し求めること、とは
- ・WHOには疼痛のくすりの他に鎮痛補助のくすりを適応外でつかうことがあります。これらについても認可がとれればもっと痛みをとることができるのと思います。

12月21日 神戸ハバ・ラント・スペース・シアター

- ・地域の医療についてどのような方法があるのでしょうか
- ・やはり気になるのが費用…どのくらいかかるのか取り上げて下さい
- ・緩和ケアを受けておられる方の体験談などを聞いてみたいです。
- ・心のケアに関する知識。家族の協力に付いてのシンポジウム
- ・Como podemos nosotros como familia del enfermo ayudar Doctor para que se le haga mas fa
‘al el tratamiento del enfermo.
- ・どんな人が緩和ケアを受けることができるのか？
- ・抗がん剤治療について
- ・オレオレさぎやねずみ講等、若年者達も引かかる犯罪についても、注意をうながすイベントを行なってほしい。
- ・どのようにしたらサポートできるか（家族などが）ということ
- ・笑いとは病のかんれんせい
- ・今後、医療ごとで必要とされるケアの方法や、活動の広げ方の考え。
- ・“ガン”とのつきあい方。お薬の飲み方で治り方が違う。どこに行けば、緩和ケアって受けられるの？
- ・現在病の一つである。うつや、心身疲ろう
- ・コミュニケーション方法について（音楽・芸術など）
- ・こどもの成人病
- ・このような為になるものであれば何でも
- ・もっともっとホスピスの充実とコストをやすく。
- ・在宅ケアについて、もっと知りたいです
- ・患者さんの体験談のようなものをききたいです。
- ・やはり、病気関連の事。あと、自分自身が長期のうつ症状で働けない状態が続いています。母が亡くなってから、発症して（祖母が亡くなり、祖父が亡くなり…）5年半になります。精神障害者手帳、障害基そ年金を取得しました。[精神的な病]は目に見えないぶん、誤解と偏見（結婚や仕事についてナド）もたくさんあります。その事について、取り上げて頂ければ嬉しいです。
- ・地域で医療ケアをうける際、具体的にどのようにすれば良いのか教えてほしい
- ・緩和ケア体験者の談。
- ・就職について
- ・本人以外（家族）のための心のケア
- ・実際のそうなん例を聞きたいです。
- ・さらに活動が進んでけば、実際の体験談などの紹介（患者ご本人が難しければご家族）
- ・終末期医療、ホスピスについて
- ・郊外の報告

- ・“医師が取り組む緩和ケアとは”
- ・心のケアについて
- ・まずは緩和ケアという言葉とどういうものかということを中心に広げていけばいいのでは

1月25日 東京国際交流館

- ・医療者のチーム医療での各分野での役割分担を知りたい
- ・患者さんの実際に体験されたがん治療、家族との関わりについて
- ・偏りが生じてしまうかもしれませんが、それぞれの宗教観からの、生きる意味と死の考え方についてほり下げて説明して頂けるシンポジウムがあれば興味深いです。
- ・患者さんの闘病記録について
- ・患者の家族のケアについて
- ・がん全体の話
- ・5年間で10万人の医師への緩和ケアの教育がどこまで進んだかなど、データを示し、完遂するようお願いします。チーム医療の実際を知りたい
- ・乳がん、特に、再発・転移のがんと「緩和ケア」
- ・在宅ケアについての情報があれば良いと思います。
- ・心のケアについて。最後まで希望をもって死ねるような心の持ち方についてなど。
- ・海外で行われている緩和ケア・ホスピスケアの実情についてききたい。小児がんの緩和ケア・ファミリーサポートについて
- ・看護師を対象とした研修・勉強会を是非お願いしたいです。緩和ケア、心身の支援の実践的な方法、症状のメカニズム、薬剤についてなど
- ・家族看護。在宅で最期を迎えることの素晴らしさ（まだまだ在宅で最期というのは現実的には難しいので）
- ・困難と感じた症例の検討会をとりあげて欲しいです
- ・患者さんだけでなくその家族に対する医療者の関わりが知りたいですね。例えばグリークワークなども関わりも知りたいです。
- ・どこに相談したらサポートしてもらえるか、どんな相談があって、どういう効果があったか発表してほしい。
- ・スピリチュアルな面でのケアを重点的に取り上げてほしい。宗教感が薄い民族なので、多面からのケアが必要なのではないかな
- ・在宅で出来ることをくわしくお話していただければと思います。
- ・医療側から情報を伝える伝達の仕方を知りたい。連けい室、相談室からのアプローチの仕方を知りたい。かんわチーム、DrからDr同志のかんわの入り方だけでなく連けい室から発信できる方法、Dr以外の場所からの
- ・もう少し自分に身近かに感じられる、上手にがん治療をするための緩和ケアについて知りたいと思います。
- ・病院でもなかなか話しあえない性の問題。病気になったら“治療が一番”と思うけど、いやいやその後たいへんな性の問題があると思うが、手につけられない
- ・「こころのケア」や「死の教育」について拝聴したいです。
- ・書類に書いてあることではなく、症例をたくさん出して、それについて議論してゆく。実際の医者と患者、看護師と患者、医者と看護師等、気持ちのすれ違いを正直に話して欲しい
- ・①緩和ケアを不採算を理由に廃止した病院があります。安定した医療サービスの供給の必要性という観点からも取り上げていただきたいと感じました。…病院の経験者へ行政担当者をまじえた

緩和医療のあり方②家族が担い手となった緩和ケアの方法

- ・緩和ケアの中のスピリチュアルペインへの対応など細かなポイントに合せたものも良いかと思えます
- ・麻薬投与によるリバンドはない。薬理的特徴
- ・国内のホスピス施設数が少ないという問題について公的並びに民間で、この問題を解決する全国的な活動
- ・地域との連携、介護保険やホスピスなどの内容や実際面でのかかわりなど、専門職を対象としたものをもっと取りあげてほしい
- ・在宅支援について。病院←→在宅の連携について、患者の不安がないように自宅―病院のつきあい方など
- ・緩和ケアを進める地域連携体制について
- ・スピリチュアル・ケア
- ・具体的に事例研究の中から、深層心理的な取り組みがあれば、より理解が深まる
- ・心のケア
- ・音楽・アロマ療法等
- ・医療側と患者を含めた一般の人たちが意見交換できるような会
- ・痛みをしんじに受けとめ実際に緩和できる技術をもったDr、Nsがふえるようなシンポジウムをおねがいします。知識はあっても実際に緩和できないDr、Nsがまだまだ多いです
- ・予防的緩和ケア～末期の苦痛に対する具体的対応、緩和ケアについて
- ・スピリチュアルペインを緩和することが、希望が生まれると思うから緩和ケアが重要であることを、今後共強調してほしい。市民が最も理解しやすく、求めていることではないか。〇〇先生のメッセージ「メメンドモリ」
- ・①疼痛に対する東洋医学的アプローチと西洋医学はアプローチの違い、効果の違い、差などをテーマにしてほしい。②民間療法の是非について教えてほしい
- ・1. スピリチュアルケアに絞ったテーマ。2. 末期ガンをテーマに。
- ・在宅医療でのがん患者さんのサポート、又、通院治療を含む連携医療について
- ・サプリメントでの緩和方法
- ・緩和ケアと家族、在宅緩和ケアと介護
- ・心のケア
- ・これから治療をする方々に、がんの治療を緩和ケアを含めて、広めていただきたい。病気の種類、症情もさまざまですが、スピリチュアルな面は共通していると思います。
- ・家族のケア（ファイナルケア）について。告知直後のケア、コミュニケーションについて
- ・今後のドクター〈病院〉のあり方（⇒たらい回し等問題）／自分にあったドクターの選び方
- ・がんの医療費の問題。がん保険に入っておくことは得か？
- ・在宅緩和ケア、ギアチェンジ、意志決定
- ・家族との関係がうまくいっていないとき（発病前から）の心のケアにも言及してほしいです。世の中は「家族は必ず、患者のことを心配し、患者を支える」と考えているようですが、そうではないこともあります。
- ・医療従事者との信頼、がん治療の費用
- ・是非このようなシンポジウムを県単位で開催することを希望します
- ・経済的部分に関するもの―治療方法の選択との相関
- ・癌の種別毎の対応等。例、食道ガンの資料が少い

- ・個別の質問時間を多く設けて欲しい。
- ・在宅緩和ケア
- ・医療業界の経営面からの見解について
- ・地元での、在宅ケアが一番のぞましく思います。インターネットで情報や関係をとる方法など、教えてほしい
- ・医療者との上手なコミュニケーションのとり方
- ・地域での連携の実際を取り上げてほしいです。現在、クリニック勤務ですが、何をどこに相談しているのかわからずにいる患者さんが多くいらっしゃるのです。
- ・家族とのかかわり方（看護師）
- ・ホスピスや緩和医療を受けれる病院の紹介。終末期も大事だが「がん」になった初めの段回で患者が冷静にうけとめて対処できるようにするための運動などもしてほしい。
- ・様々な分野の方による「日本人のためのスピリチュアルケアについて」というテーマ。
- ・今回、たくさんの事例を紹介していただいた中で直接、患者さんの体験談を聞けたら…と思いました
- ・日本全国の地域別の施設を細かに伝えて欲しい
- ・緩和ケアが必要な各ガンの具体的な進行度における病状

2月7日 沖縄コンベンションセンター

- ・在宅ケアの方法
- ・病気にならない体、未然に防げるものはないのか、笑顔いっぱいの元気な話題もほしい。
- ・患者さんが看ご師に求めるもの
- ・スピリチュアルケア、家族ケア、グリーフケア
- ・スピリチュアルケア
- ・患者だけでなく家族もサポートしていくとりくみ
- ・行政、政治、社会に呼びかけを
- ・がん難民について
- ・心のケア
- ・家族を含めての緩和ケアの取り組み、スピリチュアルケアの方法
- ・今日のような“患者さんの声”
- ・がん医療における地域連携
- ・外来でのケアについて
- ・もう少しマイクがはっきり聞えたらと思います。少し難聴のせいもあるとは思いますが…。マイクに声を近づけて…、もう少し大きく…、お願い…
- ・市民参加型の会を全国的に展開して下さい。期待しています。私もその1人としてとりくみます
- ・テーマとしては、新たなものよりもこの内容のくり返しも必要かと思ひますし、資料があってもよろしいかと思ひます
- ・地域…在宅ケアの実際が知りたい。できれば自分の家でみとり、みとられたい
- ・しばらくこのテーマで続けて欲しいです
- ・県のがん対策やがん検診、予防の面も含めて、がん対策。地域がん拠点病院、がん相談支援センターの役割、現状。「緩和ケア」の内容、具体的に一般住民にもわかる説明。在宅での緩和ケア
- ・公開講座からの参加者に対するサービスがない。スケジュール表、パネラー名など書いたペーパーがない。あるのはアンケートだけ。???
- ・患者会の紹介